

## 1. ゴム州の聖所の調査にあたって

ゴム州ではよく、「444人のエマームザーデ<sup>1</sup>が州内に葬られている」と言われる。実際にはそれほど根拠のある数字ではないようなのだが、州の規模に対してエマームザーデの数が多くと住民が意識していることに間違いはない。しかし、エマームザーデ以外にも、「人を超えたものとのコミュニケーション」や「自分を超えたものに向けるパフォーマンス」<sup>2</sup>行為が見られる場所は多い。ここではゴム州内全域でのそうした<聖所(jāye moqaddas)>の調査を目標としている。

この<聖所>の調査を行うに当たって基本資料としたのは、ワクフ慈善庁(Sāzmāne Oūqāf va Omūre Khiriye) ゴム支部の持つリストであった。

しかし、ワクフや寄付、支出の管理が主要な業務であるワクフ慈善庁は、基本的にワクフを持つ<聖所>以外の聖所については情報をほとんど持たない。そのため、文献資料や地図、現地の人々からの情報も利用してゴム州内にある聖所の調査を行い、リスト化した。(表1)しかし、様々な理由から忘れ去られたり放棄されてしまったりした聖所や、外国人に対する警戒からあえて情報を与えなかったもの、筆者の調査不足によって見落としてしまったものなどもあると考えられる。今後も調査を継続していくことで、リストの充実を目指したい。

リストはワクフ慈善庁が使用している区分に従って分類されている。これは、イランの行政区分 bakhsh、dehestān<sup>3</sup>にほぼ従っているが、一部、ワクフ慈善庁の管理の都合上、行政区分とは異なる部分もある。(図2)

本文中で使用される<聖所>の名称は、特に問題がない限り、ワクフ慈善庁のリストをはじめとする文献資料に従っているが、現地での名称と資料上の名称が異なる場合は、基本的に現地での名称を優先した。

『テヘラン州の聖所』でも指摘したが<sup>4</sup>、聖所を「エマームザーデ」と呼ぶのか「シャーザーデ」「シャー」「セイエド」「ズィヤーラトガー」とするのかに規則性はない。そのため、資料によって名称が異なることもままあり、また、現地では資料通りの呼び方ではなく、現地での呼び方にこだわる人も多い。現地での調査結果を重視するということから、資料との相違がある場合は本文あるいは注においてそれを指摘した。

エマームザーデの血統を示すシャジャレ(Shajare)も現地の情報と文献情報に差異が見

<sup>1</sup> 言葉通りにはエマームの子孫を表すが、もう一つの意味としてエマームの子孫を葬ったとされる場所そのものを指す。[Dāyerat al-Ma'ārefe Tashayyo', vol.2 : 392]

<sup>2</sup> それぞれの名称についての説明は[上岡 1987 : 255]を参照。また、聖所の名称や銘々については、Abiyāne, 'Alī Akbar Nārī, Vajhe Tasmīyeye Nām va Shohrate Emāmzādegān : bā negāhī be manābe'e tārikhī va joghrāfiyāi, Mirāse Jāvidān, 52, 1383S.H./2005, pp.133-158.で詳しい分析が行われている。

<sup>3</sup> イランの行政区分の一つ。Dehestān はいくつかの村によって構成され、bakhsh はいくつかの Dehestān によって構成される。いくつかの bakhsh と中心となる町(shahr)一つあるいは数市によって shahrestān が作られる。この単位は、古くからの地理的・文化的な共通性に基づくことが多い。

<sup>4</sup> [清水・上岡 2009 : 1-3]

られることも多い。そこで、現地での情報がある場合、本文中には現地の情報を、注においてその他の情報を記した。

<聖所>の所在は、ゴム市内にあり、住所が明確な場合には住所をしるした。しかし、町や村から離れた場所にあるものに関しては、最寄りの町あるいは村の名前で記載し、また、本文中で GPS 情報も併記した。GPS 情報については、基本的に、廟がある場合は、正面入り口前で測定するようにしているが、機材が小型で少々古いものであることから、多少の誤差があることはご寛恕いただきたい。

それぞれの聖所の位置を示すため、簡単なものではあるが地図を作成、添付しているが<sup>5</sup>、イランでは道路建設が大変な勢いで行われている一方で、地図の改訂がなかなか行われないため、一部の道路が地図とは異なっていることがある。それらすべてを確認、訂正することは不可能であるため、実際の道路と地図上の情報が異なる可能性があるということを指摘しておく。

聖廟内についての記述に、ザリー(zārīh、)<sup>6</sup>(写真 1~7)あるいはサンドウグ(şandūq)<sup>7</sup>(写真 8,9)の有無、墓石の形(写真 10,11)ザリーの型、アーイーネカーリー(ā'īnekārī)<sup>8</sup>(写真 12,13)、ギャッチボリー(gachiborī)<sup>9</sup>(写真 14)や墓地(写真 15)の有無などについて触れているが、これらが聖所の収入の度合いを表すことが多いからである<sup>10</sup>。ワクフ慈善庁は、管理下にある聖所の収支を公表することに否定的であるため、それぞれの聖所の収入の程度を知ることは難しいが、これらによって少なくとも、収入が多いのか少ないのかを推し量ることができる。

調査では、<聖所>の立地、現状、ズィヤーラト・ナーメやシャジャレ・ナーメ(写真 16,17)の有無と内容、管理人や住民へのインタビューを中心に行った。一部では、管理人や住民の不在などの理由により調査が不十分な聖所もあることをお断りしておく。

日付は、ヒジュラ/西暦で表記する。イラン暦の場合は S.H.で示される。

<sup>5</sup> *Naqsheye Siyāsāt va Eqtesādīye Ostāne Tehrān, Gitā Shenāsī* のゴム州に当たる部分を分割して利用している。

<sup>6</sup> 墓石を覆う柵。材質は木材や金属など。

<sup>7</sup> 箱の意。木製で、墓石をすっぽりと覆形のもがこの名で呼ばれることが多い。

<sup>8</sup> 鏡細工、ミラーワークの意。

<sup>9</sup> 漆喰細工の意。

<sup>10</sup> [清水・上岡 2009: 180] 聖廟の改修や新築を行う人々にとって、アーイーネカーリーで飾られたハラムと、エスファハーン型のザリーを持つことは大きな喜びである。これは、その華やかさと共に、大きな資金を必要とすることだからである。アーイーネカーリーは、その手間暇から職人が少なく、材料費と手間賃が非常に高くつく。また、エスファハーン型のザリーも同様である。ザリーはサイズが様々であるため価格等は一律ではないが、一例を挙げると、ゴム州 Bīdqān にあるエマームザーデ・エスマーイールは、2008 年にザリーをエスファハーン型のものに取り替えている。その際の報道によると、「総重量 1 トン、400 グラムの金と注目に値する量の銀を使用し、エスファハーンの職人が 8 ヶ月をかけて完成させた。かかった費用は 1500 万トマン(2010 年 9 月 15 日現在約 123 万円)であった」(イラン暦 1387 年 9 月 30 日/2008 年 12 月 20 日付 Iran Student Correspondent's Association) とある。イラン人の平均年収は、2006 年の東経によると、約 300 ドルであるが、都市部以外ではその半分以下と言われる。その決して高いとは言えない収入から、寄付を行い、修理等を行うのである。

## 2. ゴム州の聖所

ゴム州はテヘラン州の南に位置する州である。以前はテヘラン州の一部であったが、1995年にテヘラン州から分離された。北をテヘラン州、東を塩湖とセムナーン州、南をエスファハーン州とマルキャズィー州、西をマルキャズィー州と接する。

州都はゴム。

面積は約 11,328 平方キロメートル、平均標高 920 メートル。南東部と南西部の標高が高く、北に向かって標高が下がり、平原が広がっている。年間を通して降水量が少なく、乾燥した気候の地域が多い。塩湖に接する地域は特に乾燥が厳しい。

人口は 2006 年に行われた調査によると、約 106 万人で、40 年前の調査に比べると 82 万人の増加である。人口の約 90 パーセントが都市部に居住し、10 パーセントが農村部に住む。しかし、農村部でも高地の村に住む人々の中には、冬季はゴムあるいはテヘランで過ごすという人も増えている。

12 イマーム・シーア派第 8 代目イマーム・レザーの妹、ハズラテ・マアスーメの廟があることから、イマーム・レザーの埋葬地であるマシュハドと並ぶイラン最大の聖地となっており、国内外を問わず、シーア派の人々が多数訪れる。また、イラン国内におけるシーア派神学研究の中心地として神学校や研究所も多く、イラン人学生だけではなく、海外からも多くの留学生を受け入れている。こうした環境から、非常に宗教的な住民が多い。

経済的には、古くは農業が中心であったが、現在はマアスーメ廟へのズィヤーラトの人々を相手にするお土産物や宿泊、タクシーなどの関連業種に携わる人も多い。また、ガラス・陶器の製造、石材加工、建築用煉瓦の製造なども行われている。

ゴムの歴史はイスラーム以前にまで遡るとされるが、その頃の歴史については明らかではない。イスラーム初期にやってきたアラブ人によりイスラーム化し、町が作られたが、16 世紀にシーア派を国教としたサファヴィー朝の成立によって、シーア派学問とズィヤーラトの中心地となったがその後、アフガン族の侵入などによって打撃を受けるが、ガージャール朝の支配下に入って以降は再び繁栄した。

### 1. ゴム市東部地区の聖所 (Qesmate Sharqiye Rūdkhāne)

ゴム市中央部を流れるゴム川の東側。多くの聖所が点在する。川岸に建つマアスーメ廟を中心に広がるバーザール地区を含む経済的な中心でもあり、また神学校やイスラーム関連の研究も多く、宗教的なセンターでもある。行政区としてはゴムの外となるジャムキャラン村も、ワクフ慈善庁による区分ではゴム市東部地区に含まれる。

イラン国内だけではなく、国外のシーア派ムスリムも多く訪れる観光都市でもあり、近年は、国内外の参詣者のための宿泊施設やショッピングセンター、大型駐車場の建築が進められ、それに伴い街区の大規模な整備が行われている。

## (1) حضرت معصومه (Ḥazrate Ma'šūme)

Qom – Ḥarame Moṭahhar

12 イマーム・シーア派第8代目イマーム・レザーの同腹の妹の墓廟とされる。(写真 18,19) イラン国内ではマシュハドのイマーム・レザー廟と並ぶ最大級の巡礼地。(写真 20) イラン国内各地から、ゴムに葬られることを願った人々の遺体が運ばれ、廟内を一周してから墓地へと運ばれていく光景を目にすることも多い。(写真 21) また、イラン国外からもシーア派信徒の人々がよく訪れる、イラン最大の観光地の一つともなっている。

廟の前は、以前は川が流れていたが、現在は、水量はほとんどなく、駐車場として整備されている。2009 年からはこの川の上を、長距離バス・乗り合いタクシーの起点の一つとなっている Meidāne Haftād o do tan からハラムまでのモノレールを建設する工事が始まっている。

イマーム・レザー廟とは異なり、服装規定以外には巡礼者に対する対応は緩やかである。

ハズラテ・マアスーメは、マシュハドに滞在していた兄の元へ向かう途中、ゴムで亡くなり、葬られたとされる。亡くなった日に関しては歴史記録者によって異なるが、イラン政府は 201 年 Rabī' al- ṣānī 月 10 日/806 年 11 月 5 日説を採っている。

埋葬後しばらくは簡素な墓があるのみだったが、サファヴィー朝のシャー・タフマースプ時代とガージャール朝のファトフ・アリー・シャー時代に大規模な建築が行われて廟や周辺の施設が作られ、現在も増改築が行われ続けている<sup>11</sup>。

墓を多くザリーの中には、ハズラテ・マアスーメ以外にも数人が葬られていると言われていたが、誰が葬られているのかについては記録による異同が多い<sup>12</sup>。

## (2) شاهزاده سلطان محمد شريف (Shāhẓāde Solṭān Moḥammad Sharīf)<sup>13</sup>

<sup>11</sup> 現在の建築については[Noubān : 80-84]に詳しい。

<sup>12</sup> [Nāṣer al-Sharī'e : 166-7]では、確実に廟内に葬られている人物として

1. Settī Fāṭeme b. Mūsā b. Ja'far
2. Omm Moḥammad b. Mūsā khāhare Moḥammad b. Mūsā
3. Omm Eṣḥāq Jārīye Moḥammad b. Mūsā
4. Omm Ḥabīb Jārīye Abī 'Alī Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā b. Moḥammad b. 'Alī Rezā
5. Omm Kolṣūm b. Moḥammad
6. Omm al-Qāsem b. 'Alī Koukabī
7. Meimūne b. Mūsā khāhare Moḥammad b. Mūsā
8. Barīhe b. Mūsā Mobarreqe'

があげられている。

[Moḥammadī Gīlānī : 166-7]によれば、確実に廟内に葬られている人物は

1. Settī Fāṭeme b. Mūsā b. Ja'far
2. Omm Moḥammad b. Mūsā khāhare Moḥammad b. Mūsā
3. Omm al-Qāsem b. 'Alī Koukabī
4. Meimūne b. Mūsā khāhare Moḥammad b. Mūsā
5. Omm Eṣḥāq Jārīye Moḥammad b. Mūsā
6. Omm Ḥabīb Jārīye Abī 'Alī Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā b. Moḥammad b. 'Alī Rezā

である。

<sup>13</sup> Solṭān と呼ばれる理由について、レイの支配権争いをうまく調停した功により、死後 Solṭān という敬称をもって呼ばれるようになったとされる。[Moḥammadī Gīlānī : 305-6]



Qom – Khiyābāne Enqelāb – Kūche gozar Qal'e

Soḷṭān Moḥammad Sharīf b. 'Alī b. Moḥammad b. Ḥamze b. Aḥmad b. Moḥammad b. Esma'īl b. Moḥammad b. 'Abdollah<sup>14</sup> b. Emām Zein al-'Ābedīn<sup>15</sup>

1353/1934-5 年生まれ、1395/1975 年レイで亡くなり、この地に埋葬された<sup>16</sup>。

ゴム市内、マアスーメ廟のハラムから Emāmzāde 'Alī b. Ja'far に向かって伸びる通りから小路を入った中。自動車一台がようやく通り抜けられる程度の小路に面して大きな廟が建てられている。(写真 22,23) 7~8/13-14 世紀まで遡るとされる<sup>17</sup>古い廟を取り壊し、新しい廟を建築中。廟内には大きな金属製のザリーが置かれている。

ホセイニーエ、マスジェド、神学校が隣接して建てられている。

(3) امامزاده علی ابن جعفر معروف به درب بهشت (Emāmzāde 'Alī b. Ja'far ma'rūf be Darbe Behesht)

Qom – Khiyābāne Enqelāb – Falakeye Golzāre Shohadā

Emāmzāde 'Alī b. Emām Ja'far<sup>18</sup>

エマーム・ジャアファルの末子と言われている<sup>19</sup>。

以前の darvāzeeye Kāshān の外に広がる墓地の一角に建つ廟。現在、墓地の一部はゴム市の殉教者墓地の一つとなっている。そのため、墓地を訪れる人が多く廟を訪れ、木曜日には特に多くの人々が参詣する。(写真 24)

740/133-40 年に'Aṭā Malik Mīr Muḥammad Ḥasanī の命により建てられた廟<sup>20</sup>はその後増改築を繰り返して現在の形となった<sup>21</sup>。角錐ドームを持つ八角形の塔状のハラムにはエスファハーン型のザリーが置かれている。(写真 25)

正面エイヴァーンに張られたコバルト色のタイルはサファヴィー朝時代のものと考えられ、ガージャール朝ナーセロディーン・シャーのゴム旅行記の中でもその美しさについて触れられている<sup>22</sup>。(写真 26,27)

<sup>14</sup> エマーム・バーゲルの同母弟。

<sup>15</sup> [Nāṣer al-Sharī'e : 210, Moḥammadī Gīlānī : 303]

<sup>16</sup> [Javāher Kalām : 143-4]

<sup>17</sup> [Noubān : 94, Moḥammadī Gīlānī : 317] [Ṭabāṭabāī 2 : 101]によると、9-10/15-16 世紀よりも少し遡る可能性が指摘されている。

<sup>18</sup> 一説には、Emāmzāde 'Alī b. Ḥasan b. 'Īsā b. Moḥammad b. 'Alī b. Emām Ja'far。

<sup>19</sup> この名を持つ人物の埋葬地については、セムナーン、ゴム、マディーナの三カ所の名が埋葬地として挙げられている。[Javāher Kalām : 137-8, Nāṣer al-Sharī'e : 204] [Ṭabāṭabāī 2 : 43]では、他の人物もあげられ、被埋葬者が誰であるか特定されていない。また、[Moḥammadī Gīlānī : 238-9]で詳細な検討が行われている。

<sup>20</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 43] [Moḥammadī Gīlānī : 264]によれば、453/1061 年に最初の廟が建設された。

<sup>21</sup> 現在の建物は 9/15 世紀初頭のものと考えられている。[Noubān : 95, Moḥammadī Gīlānī : 264-269]

<sup>22</sup> 「エスファハーン門として名高い門の外に、アリー・ビン・ジャアファルの廟がある。そのタイルは非常に優れており、もしフランス人(西欧人)に売ったなら、彼らは 1 万トマーンでもそのタイルを買うだろう。タイルはクジャクの羽(のよう)である。私にとって明らかなのは、町の繁栄がこの方角にあったということであり、シャー・エスマーイールの手になるハズラテ・マアスーメ廟の建築以前に、エマームザーデ・アリー・ビン・ジャアファルが作られたということだ」(1305 年ラジャブ月 25 日曜日/1888 年 4 月 7 日) [Safar nāme : 147-8]

#### (4) امامزاده محمد (Emānzāde Moḥammad)

Qom – Khiyābāne Enqelāb – Falakeye Golzāre Shohadā

Emānzāde Moḥammad al-Faqīh b. Mūsā b. Eshāq b. Ebrāhīm al-'Askarī b. Mūsā b. Ebrāhīm al-Mortezā b. Emām Mūsā al-Kāzem<sup>23</sup>

以前は独立した廟であったが、現在はエマームザーデ・アリー・ビン・ジャアファル廟の一部となっている。エマームザーデ・アリー・ビン・ジャアファル廟に向かって左手に見える平たい円形ドームの部分がそれに当たる。エマームザーデ・アリー・ビン・ジャアファル廟のハラムとつながった空間で、現在は礼拝などのために使われ、独立した廟としては機能していない。(写真 28,29,30)

近所の人々に尋ねても、ここがエマームザーデ・モハンマド廟であったと知る人はほとんどおらず、エマームザーデ・アリー・ビン・ジャアファル廟の管理人だけがこのように説明してくれた<sup>24</sup>。

#### (5) شاهزاده ابراهيم (Shāhzāde Ebrāhīm)

Qom – Khiyābāne Enqelāb – rū-be-rūye Golzāre Shohadā

Shāhzāde Ebrāhīm b. Aḥmad b. Emām Mūsā al-Kāzem<sup>25</sup>

サファヴィー朝からガージャール朝時代初期の建築とされる<sup>26</sup>円錐ドームを持つ塔状の廟。周囲には墓地が広がり、敷地内には墓参の人々のための施設やマスジェドが備えられている。(写真 31-33)

道路を挟んだ向かいにエマームザーデ・アリー・ビン・ジャアファルとゴンバデ・サブズが建つため、訪れる人も多い。(写真 34)

ハラムにはエスファハーン型のザリーが置かれ、男女のスペースが分けられている。

#### (6) شاهزاده حمزه (Shāhzāde Ḥamze yā Shāh Ḥamze)

Qom – Khiyābāne Āzar – rū-be-rūye Meidāne Kohne

Shāhzāde Ḥamze b. Ḥosein b. Aḥmad b. Eshāq b. Ebrāhīm b. Mūsā b. Ebrāhīm b. Emām Mūsā al-Kāzem<sup>27</sup>

<sup>23</sup> [Nāṣer al-Sharī'e : 205, Moḥammadī Gīlānī : 254]

<sup>24</sup> [Nāṣer al-Sharī'e : 204]によると、'Alī b. Ja 'far の墓石には、“Qabre 'Alī b. Ja 'far Ṣādeq va Moḥammad b. Mūsā”と記されていたという。従って、それぞれの廟に葬られていたのか、一つの墓所に葬られていたのかは検討の余地があるようにも思われる。

<sup>25</sup> [Javāher Kalām : 139, Nāṣer al-Sharī'e : 206]などによると、シーラーズのシャー・チェラーグの息子。この問題については、[Moḥammadī Gīlānī : 276-283]において詳細な検討が行われている。また一説には、Abū al-'Abbās Aḥmad b. Moḥammad b. Ḥosein b. Ḥasan b. Ḥosein b. Ḥasan Aftas b. 'Alī Aṣghar b. Emām Zein al-'Ābedīn。

<sup>26</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 73, Moḥammadī Gīlānī : 283] では、805/1402-3年の建築。また721/1321年の日付入りの碑文も廟内に見られる。

<sup>27</sup> 一説では、シーラーズのシャー・チェラーグと母を同じする兄弟。[Javāher Kalām : 135] [Nāṣer al-Sharī'e : 203]においてもこの問題について検討が行われているが、ここではḤamze b. Mūsā b. Ja'far と

大通りから少し小路に入った廟。廟の前には古くからの墓地があり、廟の正面には家族墓も見られる。オリジナルの廟は 10/16 世紀前半の建築と言われ<sup>28</sup>、一部にはサファヴィー朝のシャー・タフマースプ時代の内装も残っていたとされるが、1317/1899-1900 年、モザッファロディーン・シャーの時代に改修が行われ、現在のドームが作られた<sup>29</sup>。また、ハラム内のアーイーネカーリー（鏡細工）はその後のもの。（写真 35~38）

バーザールに近く、周辺には商店も多いため、近所の人々が仕事や買い物の行き帰りに立ち寄ったり、廟内に入らないまでも廟に触れながら祈ったりしていく姿が見られる。

ハラムには新しいエスファハーン型のザリーが置かれており、ここにはハムゼの父ホセイーンも共に埋葬されていると言われている<sup>30</sup>。また、ハラムに続く部屋にはハムゼの祖父、アフマド<sup>31</sup>が葬られ、墓を覆うアルミ製のザリーが置かれている<sup>32</sup>。（写真 39,40）この部屋は、8-9/14~15 世紀頃に建てられたとされる独立した廟であったが<sup>33</sup>、現在はハムゼの廟の一部となっている<sup>34</sup>。

#### (7) امامزاده زيد (Emānzāde Zeid)<sup>35</sup>

Qom – Khīyābāne Āzar - rū-be-rūye Meidāne Kohne – Poshte Shāhzāde Ḥamze  
Emānzāde Zeid az Oulāde Emām Zein al-‘Ābedīn<sup>36</sup>

エマームザーデ・ハムゼの裏手に伸びる小さなバーザールの外れ。現在はホセイニーエ、マスジェドの一角となっている。（写真 41）

入り口から見て正面奥に並ぶ部屋の一番左の小部屋がエマームザーデ。（写真 42）部屋の中には新しい金属製のザリーが置かれている。

礼拝の時間以外は入り口が閉められているが、昼の礼拝の時間には近所の人々が多く訪れるとのこと。

---

なっている。また、この人物は、ゴムではなく、シーラーズやカーシュマル、スィールジャーンに葬られたという説も紹介されている。[Moḥammadī Gīlānī : 336-347]

<sup>28</sup> [Noubān : 96, Moḥammadī Gīlānī : 363-4]

<sup>29</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 88-90]

<sup>30</sup> [Moḥammadī Gīlānī : 361]

<sup>31</sup> [Javāher Kalām : 136]

<sup>32</sup> [Nāṣer al-Sharī‘e : 204]では、シャジャレ・ナーメについて Shāhzāde Aḥmad b. Eshāq b. Ebrāhīm b. Mūsā b. Ebrāhīm b. Emām Mūsā al-Kāẓem としているが、Ḥamze との関係については触れられていない。[Ṭabāṭabāī 2 : 90]においても、az navādegane Emām Haftom とあるだけで、Ḥamze との関係は示されていない。

<sup>33</sup> [Noubān : 91]シャー・タフマースプの命により改修が行われた記録がある。

<sup>34</sup> [Javāher Kalām : 136, Moḥammadī Gīlānī : 369-370]

<sup>35</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 98-99]によると Emānzāde Shāh Zahīr であるが、管理人や周辺の住民によるとそのような呼び方は聞いたことがなく、Emānzāde Zeid と呼ばれてきたとのことである。また廟の表示等もすべて Emānzāde Zeid となっている。

<sup>36</sup> 一説には Emānzāde Zeid b. Eshāq b. Mūsā b. Eshāq b. Ebrāhīm b. Mūsā b. Ebrāhīm b. Mūsā b. Ebrāhīm b. Emām Mūsā al-Kāẓem あるいは、Emānzāde Zeid b. ‘Alī b. Ḥamze al-Nāṣer al-Sharī ‘e b. Aḥmad b. Moḥammad b. Esma‘īl b. Moḥammad b. ‘Abdollāh b. Emām Zein al-‘Ābedīn. [Nāṣer al-Sharī‘e : 219-220]

### (8) شاهزاده موسی معروف به موسی مبرقع (Shāhẓāde Mūsā)

Qom – Khiyābāne Āzar – Kūche Chehel Akhtarān

Shāhẓāde Mūsā b. Emām Moḥammad Taqī<sup>37</sup>

二つのドームに向かって右側のドームの下。以前は独立した廟だったが、改修が行われた際に、隣接するチェヘル・アフタラーンと共有する礼拝用のサロンと図書室が増築され、入り口も一つになった。(写真 44)

入り口を入れて左手の入り口はチェヘル・アフタラーン。正面に見える入り口の奥がシャーザーデ・ムーサー。ハラムいっぱい大きな木製のザリーが置かれている。その中にはシャーザーデ・ムーサーとその孫アフマドの二つの墓石が見える。(写真 45,46)

生年は不明であるが<sup>38</sup>、257/871-2 年にゴムへ移住し<sup>39</sup>、その後、カーシャーンへ移ったが再びゴムに戻り、296/909-10 年にゴムで亡くなり、そのときに住んでいた場所に埋葬された<sup>40</sup>。隣接するチェヘル・アフタラーンに妻と息子モハンマドが葬られている。

あまりに美しい容貌を有していたため、人に騒がれぬよう、外出時には必ずブルカによって顔を隠していたとされる。そのため、Mūsā Mobarreqe (ブルカをかぶったムーサー) と呼ばれた<sup>41</sup>。

廟の建築<sup>42</sup>、改修についてはチェヘル・アフタラーンと同時期とされる<sup>43</sup>。現在、ドームなどの大規模な増改築工事が進められている。

チェヘル・アフタラーンとシャーザーデ・ムーサーと、次のシャーザーデ・ゼイドの三つのコンプレックスはゴム市のバーザールに隣接し、ゴムの人々だけではなく、国内外からマアスーム廟に参詣した人々も多く訪れるとのこと<sup>44</sup>。

### (9) بقعة چهل اختران (Boq'ē Chehel Akhtarān)

Qom – Khiyābāne Āzar – Kūche Chehel Akhtarān

二つのドームが並ぶ大きな建物。向かって左側の少し平たいドームの下が Chehel Akhtarān。

ハラム内いっぱい広がる一辺 9 メートルにも及ぶ巨大なザリーの中に、40 人分のコーランの置かれたナフル (nakhl=コーランを置く台) が置かれている。(写真 47)

隣接するエマームザーデ・ムーサーの関係者を中心に、エマームやエマームザーデに関する人物たちがここに葬られているとされているが、正確な人数は分かっていない<sup>45</sup>。

<sup>37</sup> 12 イマーム・シア派第 10 代目イマーム・ハーディーと母を同じくする兄弟と言われる。

<sup>38</sup> [Moḥammadī Gilānī : 379]214/829-30 年に生まれたとも言われる。

<sup>39</sup> [Ṭabātabāī 2 : 78]によると、ゴムへの移住は 256/870-1 年である。

<sup>40</sup> [Javāher Kalām : 133, Nāṣer al-Sharī'e : 201, Ṭabātabāī 2 : 78, Moḥammadī Gilānī : 380]

<sup>41</sup> [Moḥammadī Gilānī : 380-1]

<sup>42</sup> [Moḥammadī Gilānī : 420] サファヴィー朝以前に遡るとも言われる。

<sup>43</sup> [Ṭabātabāī 2 : 80]851/1447-8 年の碑文が残り、また、1335/1916 年の改修の碑文も見られる。

<sup>44</sup> [Ṭabātabāī 2 : 76] 現在はこの三つの廟はコンプレックスを形成しているが、以前はそれぞれが独立していた。

<sup>45</sup> 378/988-9 年に編纂された *Tārīkhe Qom* によるとはじめ 14 人が葬られていたが、その後、エマームザ

851/1447-8年の碑文があり、この頃に建設されたとされる。その後、953/1546-7年にシャー・タフマースブにより改修が行われ、現在の建物はこの建築が基本となっている<sup>46</sup>。2009年現在、ザリーを取り壊し、廟内の改修工事が行われている。(写真 48)

#### (10) شاهزاده زيد (Shāhzāde Zeid)

Qom – Khīyābāne Āzar – Kūche Chehel Akhtarān

Shāhzāde Zeid b. 'Alī b. 'Alī Akbar<sup>47</sup> b. Moḥammad b. 'Abdollah b. Moḥammad b. al- Ḥasan al- Ḥosein al- Aṣghar b. Emām Zein al-Ābedīn<sup>48</sup>

チェヘル・アフタラーンとは墓地を挟んで向かい。平たいドームを持つ小さな廟。家族墓などのホジュレの並びにそれと同じ形をした入り口。(写真 49)

---

ーデ・ムーサーやジャアファルの一門が次々にここに葬られ、現在の名前で知られるようになった。Chehel Dokhtarān とも呼ばれる。また、一説には、40人の女性、40人の男性、25人の子供の計105人がここに埋葬されている[Noubān : 93], [Moḥammadī Gilānī : 430-432]によると埋葬されている人物は以下の通り。

1. Moḥammad b. Mūsā Mobarreḡe b. Emām Moḥammad Taqī
2. Abū 'Alī Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe
3. Abū 'Alī Moḥammad E'rrāj b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe
- 4-5. Abū Ja'far va Fakhr al-Dīn b. Yaḥyā ṣūfī b. Ja'far al-Kazzāb b. Emām 'Alī Naqī
6. Barīhe hamsare Mūsā Mobarreḡe
- 7-10. Chahār Dokhtarān Abī 'Alī Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe : Fāṭeme, Omm Salame, Omm Kolṣūm, Barīhe
- 11-12. Omm Ḥabīb va Omm Moḥammad Khāharāne Abū 'Alī Moḥammad va Dokhtarāne Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe
13. Zeinab Dokhtare Mūsā Mobarreḡe
14. Omm Valad Hamsare Abū 'Alī Moḥammad E'rrāj b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe
15. Yaḥyā b. Aḥmad b. Moḥammad E'rrāj b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe
16. Abū Ja'far Moḥammad b. Mūsā b. Aḥmad b. Moḥammad E'rrāj b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe
17. Abū al-Fath 'Abdollah Mūsā b. Aḥmad b. Moḥammad E'rrāj b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe

ただし、15-16の3人については疑いがあるとされている。また、[Javāher Kalām : 141-2]によると、

1. Abū Ja'far Mūsā b. Moḥammad b. 'Alī b. Mūsā b. Moḥammad
2. Barīhe zane Mūsā b. Moḥammad
3. Abū 'Alī Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā b. Moḥammad b. 'Alī al-Rezā
4. Moḥammad b. Mūsā b. Moḥammad
5. Zeinab b. Mūsā Mobarreḡe va Omm Moḥammad b. Aḥmad b. Abū 'Alī Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā b. Moḥammad b. 'Alī al-Rezā
6. Fāṭeme b. Moḥammad b. Aḥmad b. Abū 'Alī Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā b. Moḥammad b. 'Alī al-Rezā

らが被埋葬者としてあげられている。

[Nāṣer al-Sharī'e : 208-9]では、この7名に加え、

7. Barīhe b. Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe
8. Abī 'Abdollah Aḥmad b. Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe
9. Omm Salame b. Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā b. Moḥammad b. 'Alī al-Rezā
10. Omm Kolṣūm b. Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā b. Moḥammad b. 'Alī al-Rezā

の名をあげている。

ワクフ慈善庁が配布しているシャジャレ・ナーメによると、Abū 'Alī Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe はシーラーズに埋葬されている。また、このシャジャレ・ナーメによると、他に、Omm Moḥammad b. Mūsā Mobarreḡe、Barīhe b. Mūsā Mobarreḡe、Abū 'Abdollah Aḥmad b. Abū 'Alī Moḥammad E'rrāj b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe、Mūsā b. Abū 'Alī Moḥammad E'rrāj b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe がここに埋葬されている。

<sup>46</sup> [Noubān : 93, Nāṣer al-Sharī'e : 208, Ṭabāṭabāī 2 : 81-2, Moḥammadī Gilānī : 433]

<sup>47</sup> テヘランのシェミーラーナート地区に廟がある Emāmzāde 'Alī Akbar. [清水・上岡 2009 : 18]

<sup>48</sup> [Moḥammadī Gilānī : 437]

入り口を入ってすぐにシンプルな木のザリーが置かれたハラム。(写真 50)

入り口エイヴァーンにはギャッチボリーが見られるが、その他はほとんど飾り気のない簡素な廟。ハラムは 7/13 世紀、エイヴァーンは 9/15 世紀<sup>49</sup>、ドームは 10/16 世紀頃に建築されたと考えられている<sup>50</sup>。(写真 51)

エマームザーデ・ムーサーやその周辺の人々とは関係はなく、偶然同じ場所に葬られているとのこと。

#### (11) امامزاده علی موسی الرضا (Emānzāde 'Alī Mūsā al-Rezā)

Qom – Khiyābāne Āzar – Meidāne Nekūi

Emānzāde 'Alī Mūsā al-Rezā b. Aḥmad b. Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā Mobarreḡe b. Emām Moḥammad al-Taḡi<sup>51</sup>

メイダーンから小路を入ってすぐに廟への門が見えるが、普段は閉じられており、木曜の午後のみ開けられる。(写真 52)

オリジナルの建物はガージャール朝時代後半まで遡るとされるが、現在の建物は近年建て替えられた新しいもの。入り口を開けるとすぐに金属製のザリーの置かれたハラム。その右手に礼拝用の小部屋。(写真 53)

埋葬されている人物についての詳細は分かっていない。

木曜日の午後になると、女性たちが多く集まってくるとのことである。

#### (12) امامزاده شاهزاده اسماعیل معروف به سید سربخش (Emānzāde Shāhzāde Seyyed Sar-Bakhsh)

Qom – Khiyābāne Āzar

Shāhzāde Seyyed Esma'īl az navādegāne Emām Ja'far<sup>52</sup>

774/1372-3 年に Ghiyāṣ al-Dīn Amīr Muḥammad の命によって建てられた、青いタイル張りの角錐ドームを持つ塔状の廟<sup>53</sup>。その後、いくつかの部屋が増築され、継続的に増築や改修が行われている。廟の前は小さな墓地になっている。(写真 54,55)

ハラム内には古い時代のギャッチボリーや碑文が残されている。ハラムは金属製のザリーでいっぱいになっている。ザリーにダヒールを結ぶことができないため、壁の何カ所かで大

<sup>49</sup> [Ṭabātabāi 2 : 76]847/1443-4 年。

<sup>50</sup> [Javāher Kalām : 142, Noubān : 93, Moḥammadī Gīlānī : 443, Nāṣer al-Shar'īe : 209]

<sup>51</sup> [Javāher Kalām : 153]によると Emām Mūsā al-Kāzem の子孫。

<sup>52</sup> 廟内でのハーダムの説明による。[Javāher Kalām : 153, Nāṣer al-Shar'īe : 207]によると、Moḥammad b. 'Abdollāh b. Ḥosein b. 'Alī b. Moḥammad b. Emām Ja'far。また一説には Shāhzāde Seyyed Esma'īl b. Moḥammad b. Emām Ja'far、Shāhzāde Seyyed Esma'īl b. Moḥammad b. 'Abdollāh b. Ḥosein b. 'Alī b. Moḥammad Dībāj b. Emām Ja'far、[Moḥammadī Gīlānī : 450]Shāhzāde Seyyed Abū al-Ma'ānī Esma'īl b. 'Abdollāh b. Ḥosein b. Moḥammad b. Ḥosein b. Aḥmad b. Moḥammad 'Azīzī b. Ḥosein b. Moḥammad b. 'Alī b. Ḥosein b. 'Alī b. Moḥammad Dībāj b. Emām Ja'far。また、ワクフ慈善庁の配布したシャジャレ・ナーメによると、Shāhzāde Seyyed Esma'īl b. Ḥosein b. Moḥammad b. Ḥosein b. Aḥmad b. Moḥammad b. 'Abdollāh b. Ḥosein b. Moḥammad b. 'Alī b. Ḥosein b. 'Alī b. Moḥammad b. Emām Ja'far。

<sup>53</sup> [Noubān : 95, Ṭabātabāi 2 : 61, Moḥammadī Gīlānī : 460]

理石を取り外し、そこにむき出しになっているコードなどにダヒールがびっしりと結びつけられている。(写真 56,57,58)

モンゴル時代、敵に負われて逃げてきた<sup>54</sup>エマームザーデがここで首をはねられた。首は敵によって持ち去られ、胴体が現在廟のある場所に葬られた。後に首は胴体の葬られている場所に戻されたが、首は神に捧げられたものなので必要はないとエマームザーデのバラキヤトによって敵の許に飛んで戻っていった。しかし最終的に首は胴体の許へと戻され、胴体とは少し離れた場所に埋葬された。現在の廟は胴体を埋葬した場所と伝えられる。

廟にもう一人埋葬されているとも言われているが<sup>55</sup>、それは同じアール通りにあって現在は失われてしまったもう一つのエマームザーデ・サル・バフシュのことであるという説もあり、はっきりとしない。

### (13) سيد ابو الحسن رضا (Seyyed Abū al-Ḥasan Rezā)

Qom – Khiyābāne Āzar – Kūche 45 – Entehāye Kūche Daste Rāst – Janbe Pelāke 6

小路に並ぶ他の民家と変わらない外見の廟。(写真 59)

埋葬されているとされる人物については明らかではないが、ジャムキャラン建設にまつわる物語に登場する人物とされている<sup>56</sup>。

広い部屋の中央にザリーを持たない墓石が置かれている。(写真 60)

集会を行うことができるよう、お茶道具なども置かれているが、普段は鍵がかけられ、木曜日や宗教行事が行われる日のみ扉が開けられるとのこと。

### (14) امامزاده سيد ناصرالدين معروف به بقعه احمد بن اسحاق (Emāmzāde Seyyed Nāṣer al-Dīn ma'rūf be Boq'e Aḥmad b. Eṣḥaq)<sup>57</sup>

Qom – Khiyābāne Āzar – Barābare Darbe Vorūdiye Masjede Emām

Emāmzāde Seyyed Nāṣer al-Dīn 'Alī b. Maḥdī b. Moḥammad b. Ḥosein b. Zeid b. Moḥammad b. Aḥmad b. Ja'far b. Moḥammad<sup>58</sup> b. 'Abd al- Raḥman b. Moḥammad al-Baṭḥāi b. Qāsem b. Ḥasan b. Zeid b. Emām Ḥasan Mojtābā<sup>59</sup>

バーザールの外れ。商店が並ぶ中に建つ廟。8/14 世紀末から 9/15 世紀初頭に生きた人物と言われる<sup>60</sup>。オリジナルの廟は 12/18 世紀のものでされるが、サファヴィー朝まで遡る可

<sup>54</sup> ニューシャーブルで Sulṭān Muḥammad Khārazmī に仕えていたと伝えられている。

<sup>55</sup> Seyyed Moḥammad 'Azīz という人物であるとされるが、はっきりしない。[Moḥammadī Gilānī : 446-450] [Ṭabātabāi 2 : 104]

<sup>57</sup> [Moḥammadī Gilānī : 323, Nāṣer al-Sharī'e : 211, Ṭabātabāi 2 : 103]以前は Emāmzāde Aḥmad b. Eṣḥaq b. Ebrāhīm b. Mūsā b. Ebrāhīm b. Emām Mūsā al-Kāẓem という人物が葬られているとされ、Boq'e Aḥmad b. Eṣḥaq という名で呼ばれていた。この人物については、[Moḥammadī Gilānī : 324-5]において詳細に検討されている。[Javāher Kalām : 145]によると Shāhẓāde Nāṣer al-Dīn。

<sup>58</sup> ワクフ慈善庁が配布しているシャジャレ・ナーメによると、Ja'far b. 'Abd al- Raḥman で、Moḥammad の名はない。

<sup>59</sup> [Moḥammadī Gilānī : 324, Nāṣer al-Sharī'e : 211]

<sup>60</sup> [Javāher Kalām : 145]によると、この人物は Masjede Emām Ḥasan 'Askarī を建てた際に自分の墓所もそこに作っていた。しかし、実際には現在のケルマーンシャー州にある Sare Pole Zehāb で亡くなり、そ

能性も指摘されている。(写真 61)

出入り口、ハラムは男女別に分けられ、それぞれ5～6人が入れればいっぱいになるほどの広さしかない。中央にエスファハーン型のザリーが置かれている<sup>61</sup>。(写真 62) 通りに面した壁にもザリーがはめ込まれ、道行く人々が触れていくことができるようになっており、買い物途中の人々が足を止めてザリーに触れて祈っていくのが見られる。(写真 63)

### (15) شاهزاده احمد بن قاسم (Shāhzāde Aḥmad b. Qāsem)<sup>62</sup>

Qom – Khīyābāne Mo'allem – Meidāne Basīj

Shāhzāde Aḥmad b. Qāsem az navādegāne Emām Mūsā al-Kāzem<sup>63</sup>

町の中心からは南東に外れたメイダーン（旧 Darvāzeeye Qal'e Qom）に面した廟。廟のあるあたりは、以前はゴム周辺の村の一つだったがゴムの拡大に伴い吸収され、ゴム市内となった。以前は廟の周辺一帯に墓地が広がっていたが、市街の拡大に伴い縮小された。現在、廟の周辺の土地は私有地であり、墓地の拡大はできないため、古い墓を整理し、新たな希望者に販売した。非常に人気があるが既に予約でいっぱいであり、これ以上の予約は受け付けていないとのこと。(写真 65)

3世紀頃にゴムに移住し、現在廟のある場所に住み、亡くなった人物で、妹 Fāteme も共に葬られていると伝えられている<sup>64</sup>。

ゴムで時々見られる突起が突き出した形式のドームを持つが、この形式は革命前のものであり、それほど古いものではないとのこと。廟そのものは 780/1378-9 年に、当時のゴムを統治していた 'Alī Ṣafī 家によって建てられたもので<sup>65</sup>、その後何度か改修が行われている<sup>66</sup>。それほど広くないハラムは男女別に分けられ、エスファハーン型のザリーが置かれている。

ハラムにはゴムで最も美しいギャッチボリーのひとつとされる建築当時のギャッチボリーが残っているが<sup>67</sup>、近年行われた修復後、白ペンキで塗られている。(写真 66-68)

### (16) بقعة چهار امامزاده معروف به ملا آقا بابا (Boq'e Chahār Emāmzāde)

Qom – Falakeye Jehād

Shāhzāde Ḥosein, Shāhzāde Ḥasan, Shāhzāde Ebrāhīm va Shāhzāde Ja'far farzandāne

---

こで埋葬されたが、人々は用意された墓所をその名で呼ぶようになった。(写真 64)

<sup>61</sup> 1979年のイラン・イスラーム革命後、1370S.H./1991年にホメイニー師の指揮により据え付けられたもの。[Moḥammadī Gīlānī : 331]

<sup>62</sup> Shāh Aḥmad Qāsem とも。

<sup>63</sup> 廟内のシャジャレ・ナーメではこのようになっているが、ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメ他の資料によると、Shāhzāde Aḥmad b. Qāsem b. Aḥmad b. 'Alī b. Emām Ja'far Ṣādeq であり [Javāher Kalām : 144, Moḥammadī Gīlānī : 287, Nāṣer al-Sharī'e : 211]、ゴム市内に廟のある Emāmzāde 'Alī b. Ja'far の子孫である。

<sup>64</sup> [Moḥammadī Gīlānī : 290, Nāṣer al-Sharī'e : 211]

<sup>65</sup> 663/1264-5年の日付のある碑文も残されているが、現在はベルリン博物館の所蔵。[Noubān : 96, Ṭabātabāī 2 : 69]

<sup>66</sup> [Moḥammadī Gīlānī : 295-300]

<sup>67</sup> [Ṭabātabāī 2 : 65]



Emām Zein al-‘Ābedīn<sup>68</sup>

廟の建築はサファヴィー朝以前に遡るとされるが、現在の廟は 1286/1869-70 年建築とされる。(写真 69,70)

廟のハーダムであったモッラー・アーガー・バーバーの名で知られていた<sup>69</sup>。

小さなエスファハーン型のザリーが置かれたハラムはそれほど広いものではないが、隣に礼拝などに使うための部屋が増築されている。(写真 71)

通りに面して二方向に入口があり、樹木が多く植えられた広い庭が一方には作られていて、住宅地の中にあることから、勉強をしたり木陰や芝生の上で休んだりする人々も多い。

### (17) امامزاده احمد معروف به امامزاده احمد میانی (Emānzāde Aḥmad)<sup>70</sup>

Qom – Bolvāre 15 Khordād

Emānzāde Aḥmad b. Moḥammad Ḥanīfe b. Emām ‘Alī<sup>71</sup>

Chahār Emānzāde と Shāhzāde Seyyed ‘Alī の中間(miyān)にあるため、Emānzāde Aḥmad Miyānī と呼ばれる周囲を墓地に囲まれた廟。1979 年のイスラーム革命後、廟の改修、拡張が進められ、図書室などの付属施設が敷地内に作られた<sup>72</sup>。

932/1525-6 年にサファヴィー朝シャー・タフマースプの命により建設された円錐ドームを持つ塔状の廟<sup>73</sup>。外壁などに破損が目立っていたが 2007~9 年に改修が行われた。(写真 72~74)

それほど広くないハラムに金属製のザリーが置かれている。

### (18) شاهزاده سيد علی (Shāhzāde Seyyed ‘Alī)

Qom – Bolvāre 15 Khordād

Seyyed ‘Alī b. Ebrāhīm b. Abī Ja‘far Ḥasan b. ‘Obeidollāh b. Abū al- Faḥr al-‘Abbās<sup>74</sup>

<sup>68</sup> 一説には、Abū ‘Abdollāh Ḥosein b. ‘Alī b. ‘Omar b. Ḥasan al-Aftas b. ‘Alī Aḥḡar b. Emām Zein al-‘Ābedīn とその三人の息子、Abū Moḥammad Ḥasan, Abū ‘Alī Moḥammad va Abū Ṭāleb Moḡsen [Javāher Kalām : 150-1, Moḥammadī Gīlānī : 495]。ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメもこちらの系譜を採っている。[Nāḡer al-Sharī‘e : 215]によると、Shāhzāde Ḥasan b. Ḥosein b. Ḥasan Aftas b. ‘Alī b. Emām Zein al-‘Ābedīn と三人の息子。

<sup>69</sup> [Ṭabātabāī 2 : 102, Moḥammadī Gīlānī : 495]

<sup>70</sup> [Ṭabātabāī 2 : 92, Moḥammadī Gīlānī : 477]によると、Emānzāde Seyyed Abū Aḡmad。

<sup>71</sup> 廟内の墓石の上にはこのように表記されているが、ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Abū Aḡmad Moḥammad b. ‘Abdollāh b. Ja‘far b. ‘Abdollāh b. Ja‘far b. Moḥammad Ḥanafīye b. Emām ‘Alī である。[Javāher Kalām : 150]によると、墓石の上には、Shāh Seyyed ‘Alī b. Ebrāhīm b. Ja‘far b. ‘Abbās b. Amīr al-Mo‘menīn と書かれており、[Moḥammadī Gīlānī : 481]もこれを採用している。[Nāḡer al-Sharī‘e : 215]によると、Abū Aḡmad Moḥammad b. ‘Alī b. ‘Abdollāh b. Ja‘far b. ‘Abdollāh b. Ja‘far b. Moḥammad Ḥanafīye b. Emām ‘Alī。また、[Ṭabātabāī 2 : 92]は、廟内に残るタイル上の碑文から、Abū Aḡmad b. Moḥammad b. ‘Alī b. ‘Abdollāh b. Ja‘far b. Moḥammad Ḥanafīye b. Emām ‘Alī としている。

<sup>72</sup> [Moḥammadī Gīlānī : 505]

<sup>73</sup> [Noubān : 95, Ṭabātabāī 2 : 92-95, Moḥammadī Gīlānī : 491 ]

<sup>74</sup> ザリー上にはこのように表記されているが[Moḥammadī Gīlānī : 465]、Seyyed ‘Alī b. Aḡmad b. Moḥammad b. ‘Abdollāh b. Ja‘far b. ‘Abdollāh b. Ja‘far b. Moḥammad Ḥanīfe b. Emām ‘Alī であるとも言われる。ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Seyyed ‘Alī b. Aḡmad b. Moḥammad b. ‘Alī b. ‘Abdollāh b. Ja‘far b. ‘Abdollāh b. Ja‘far b. Moḥammad Ḥanafīye b. Emām ‘Alī である。

以前の **darvāze** **Rey** の外にある、ワクフ慈善庁によると、様々な奇跡によって知られ、ゴム市内で最もズィヤーラトの人が多くエマームザーデの一つ。(写真 75)

周囲を墓地に囲まれた青いタイルのドームを持つ廟は増改築工事が行われている最中で、アーイーネカーリーが新たに施される。廟の建築の年代は不明であるが<sup>75</sup>、ガージャール朝時代ファトフ・アリー・シャーの時代に改修が行われたという記録が残っている。

ハラムは男女別に分けられ、エスファハーン型のザリーが置かれている。昼の礼拝の頃には礼拝をここで行う人が多く訪れ、また仕事帰りに立ち寄る男性の姿も多く見られる。(写真 76,77)

### (19) بقعة علي بن بابويه (Boq'ē 'Alī b. Bābūye)

Qom – Khiyābāne Eram – moqābele Qabrestāne Sheikhān

Sheikh Abū al-Ḥasan 'Alī b. al-Ḥosein b. Mūsā b. Bābūye Qommī

テヘランのシャフレ・レイに廟がある Sheikh Ṣadūq<sup>76</sup>の父。329/940-1 年没。

エラム通りに並ぶ商店の裏側にあるため、ドームや廟が目立たなくなっている。通りから見えるのは隣接するマスジェドと新たに作られた廟の入り口。(写真 78) この入り口から直接入ることはできず、廟に隣接する礼拝などに使われる大部屋に続いている。この入り口は礼拝の時間にしか開けられない。この部屋の床面には墓石が並ぶ。

入り口に向かって右手に伸びる小路に廟に直接入ることのできる小さな扉があり、こちらは昼の間は開けられ、ズィヤーラトの人が中に入ることができるようになっており、ハラムを訪れた人や近所の人々が訪れている。(写真 79,80)

ガージャール朝時代初期のものとしてされる廟<sup>77</sup>は現在改修中で、金属製のザリーが置かれたハラムは床がはがされ、足場が組まれている。古い時代のギャッチボリーや彩色が一部残っている。(写真 81)

### (20) بقعة جعفر ابن قولويه (Boq'ē Ja'far b. Qoulūye)

Qom – Khiyābāne Eram – janbe qabrestāne Sheikhān

Sheikh Abū al- Qāsem Ja'far b. Qoulūye Qommī

アリー・ビン・バーブーエの廟とは通りを挟んだほぼ向かい。

ハラム前に近年建設されたパッサージュに隣接しており、現在は新しい廟を建築中で、現在は墓石の置かれた小部屋だけが残されている。(写真 82)

小さな廟ではあるが、ハラムを訪れ、パッサージュで買い物をする人や、神学校で学ぶ学生やルーハーニーも立ち寄っている。(写真 83) 廟の傍らには殉教者墓地。(写真 84)

テヘラン州パークダシュト郡に廟のあるヤアクーブ・コレイニー<sup>78</sup>の弟子の一人とされる。

<sup>75</sup> [Tabātabāī 2 : 103]によるとそれほど古いものではない。

<sup>76</sup> [清水・上岡 : 38]

<sup>77</sup> [Tabātabāī 2 : 102]1339/1920-1 年の日付が残っている。

<sup>78</sup> [清水・上岡 : 129]

367/977-8 年没。

**(21) مقبرة على ابن ابراهيم (Maqbareye 'Alī b. Ebrāhīm)**

Qom – Khiyābāne Eram – dākhele Pāsāze Mellat

Sheikh'Alī b. Ebrāhīm b. Hāshem al- Qommi

ジャアファル・ビン・ゴウルーイエの廟脇からパッサージュに入っすぐ。通路中央に置かれた比較的小型のエスファハーン型のザリー。(写真 85)

エマーム・ハーディーの教友と伝えられる人物の墓とされる<sup>79</sup>。

ハラムに参詣した人々が買い物にこのパッサージュに立ち寄り、ザリーに触れたり接吻していたりするが、由来を知る人はごくわずかであった。(写真 86,87)

**(22) قبرستان شيخان (Qabrestāne Sheikhān)<sup>80</sup>**

Qom – moqābele Ḥarame Motaḥḥar

ハラム前に位置する四方をバーザールに囲まれた墓地。イスラーム初期まで遡るとされるが、起源ははっきりとしない。(写真 88)

現在は、外側を店舗に囲まれた墓地内の四辺をゴムで最初の殉教者墓地(Golzāre Shohadā)が取り囲んでいる。(写真 89) 墓地内にはびっしりと墓石が並び、その中に三つの小さな廟が作られ、ハラムを訪れる人々がズィヤラトに訪れる。

三つの廟はそれぞれ、

・ Maqbare Mīrzā Qommi<sup>81</sup> (写真 90,91)

・ Maqbare Zakariyā b. Ādam Ash'arī Qommi<sup>82</sup> (写真 92~94)

・ Ārāmgāhe Ḥāj Seyyed 'Alī Farsh-vash Ḥoseinī Ardahālī (写真 95,96)

その他にも著名なモッラーをはじめとする人物たちがここに埋葬されており、ゴム市内有数のズィヤラトガーとなっている。

**(23) زیارتگاه ستیه خاتون (Ziyāratgāhe Setiye Khātūn)**

Qom – 45 metrīye 'Ammāre Yāser – Meidāne Mīr (Beit al-Nūr)

マスジェドの一角に設けられたズィヤラトガー。礼拝の時間のみマスジェドの扉が開けられるので、その間のみズィヤラトが可能。(写真 97)

ハズラテ・マアスーメが亡くなるまでの数日間を過ごし、ゴスル(gosl=遺体の浄め)が行われた場所であると伝えられる<sup>83</sup>。マスジェドの床面よりも一段低くなった聖所には、タイ

<sup>79</sup> シェイフ・サドゥグの言葉に従えば、没年は 307/919-920 年以降となる。

(<http://www.hawzah.net/hawzah/magazines>)

<sup>80</sup> この墓地に隣接する Boq'e Sheikh 'Alī b. Bābūye と Boq'e Sheikh Ja'far b. Qoulūye という二人のシェイフの墓にちなんでこのような名で呼ばれるようになり、著名なモッラー、アーヤトラーの墓も多い。

<sup>81</sup> 1151/1738-9~1231/1815-6. ロレスターン州出身の著名なモッラー。

<sup>82</sup> エマーム・レザーの教友の一人とされる人物。

<sup>83</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 104, Nāṣer al-Sharī'e : 166]

ルで飾られたゲブレ（アラビアの qibla のペルシア語読み）が設けられているが、ザリーや墓石のような聖所であることを示すものは見られない。

マスジェドで礼拝を行うのは男性がほとんどだが、聖所では女性だけが礼拝を行う。男性は聖所に下り、ゲブレに触れ、接吻をするだけで戻って行く。（写真 98,99）

#### (24) مقبره بابا مسافر (Maqbareye Bābā Mosāfer)

Qom – 55 metrīye ‘Ammāre Yāser – Kūcheye 15 – janbe Madreseye Sheikh Mofīd

Darvāze Rey の近く。現在は、ゴム-カーシャーン街道からゴム市内へ入る大通りの近く。

(写真 100)

普段は鍵がかけられており、木曜日の午後のみ開けられるとのことで、中は確認できず。

(写真 101)

近年、改修が行われているが、オリジナルはサファヴィー朝時代の建築<sup>84</sup>。

第8代目エマーム・レザー、第9代目エマーム・ジャヴァードの召使いであり教友の一人であったダルヴィーシュであり、エマーム・ムーサーの監禁・殺害の語り手であった旅人であったとされる<sup>85</sup>。

#### (25) بقعة شيخ اباصلت (Boq‘e Sheikh Abāšalt)

Qom – Khiyābāne Āzar – Masjede Jāme‘ – Janbe Darvāzeye Rey

Sheikh Abāšalt b. ‘Abd al-Qāder b. Moḥammad

旧レイ門の近く。現在、通りに面した扉は閉じられており、木曜日や特別な日のみ開けているとのこと。廟の周囲には墓地が広がっているが、市街の拡大に伴い縮小され、以前墓地だった場所には学校が建てられている。（写真 102,103）

イスラーム初期の学者であり、エマーム・レザーのサハーバの一人<sup>86</sup>の墓廟と言われるサファヴィー朝時代の建築<sup>87</sup>。近年改修が行われた。ハラムにはザリーを持たない墓石が置かれている。（写真 104）

比較的近所で廟の場所を尋ねても存在を認識していない住民も多い。

#### (26) شاه جمال غريب (Shāh Jamāl Gharīb)

Qom – Jādde Kāshān – janbe Qabrestāne Baqī’

（北緯 34 度 35 分 50 秒 東経 50 度 55 分 83 秒 標高 933 メートル）

Shāh (Shāhzāde) Jamāl Gharīb az oulāde Emām Mūsā al-Kāzem<sup>88</sup>

ゴムからカーシャーンに向かって 1 ファルサング（約 6 キロメートル）にある広い墓地の

<sup>84</sup> [Ṭabātabāī 2 : 97, Nāṣer al-Sharī‘e : 219]

<sup>85</sup> [Nāṣer al-Sharī‘e : 219-220, Javāher Kalām : 154-5]

<sup>86</sup> [Nāṣer al-Sharī‘e : 214]

<sup>87</sup> [Ṭabātabāī 2 : 100]

<sup>88</sup> [Nāṣer al-Sharī‘e : 217]による。[Javāher Kalām : 153]によると、Moḥammad Jamāl b. Ja‘far b. Ḥosein b. ‘Alī b. Moḥammad b. Emām Ja‘far。

一角に建つ廟。

19世紀末に建てられたという廟<sup>89</sup>を取り壊し、新しい廟を建築中。(写真 105~107)

### (27) امامزاده جعفر غریب (Emāmzāde Ja'far Gharīb)

Qom – Jādde Jamkarān

(北緯 34 度 35 分 78 秒 東経 50 度 55 分 27 秒 標高 935 メートル)

Emāmzāde Ja'far Gharīb az navādegāde Emām Zein al-'Ābedīn<sup>90</sup>

ゴムからジャムキャラーンに向けて1ファルサングの地点<sup>91</sup>。ゴム-カーシャーン街道から分かれ、ジャムキャラーンへ向かう街道の通過地点にあるため、ジャムキャラーンに向かう人が多く立ち寄る。(写真 108)

ガージャール朝ファトフ・アリー・シャー時代の建物を改修中<sup>92</sup>。ハラムには金属製のザリー。

廟の周囲はビヤーバーンが広がり、墓地は見られない。

廟から 100 メートルほど離れたところに小さなタッペがあり、ろうそくを灯した跡が多数見られる。(写真 109,110)

### (28) کوه خضر نبی (Kūhe Kheẓr Nabī)

Qom – Shahrake Emām Komeinī

(北緯 34 度 35 分 31 秒 東経 50 度 52 分 04 秒 標高 1123 メートル)

ゴム郊外の丘の上の聖所。丘の下には以前は小さな村であったが、近年拡大したゴム市の人口を受け入れるために作られた住宅が広がる。丘の下にはゴムとジャムキャラーン村を結ぶ巡礼路が通っている。(写真 111,112)

丘の頂上には以前は小さな廟があったとのことだが<sup>93</sup>、現在はそれを取り壊し、新しいマスジェドを建築中。マスジェドの中に作られた小部屋がヘズルのガダムガーとして人々の崇敬の対象となっているが、足跡らしいものは壁面にも床にも見あたらない。

丘の下の駐車場の一角には、エスファハーン型のザリーで覆われた殉教者の墓が置かれ、ズィヤーラトガーのようになっている。(写真 113~118)

### (29) امامزاده علی رضا (Emāmzāde 'Alī Rezā)<sup>94</sup>

Qom – az Jādde Jamkarān be ṭarafe Kūhe Khāje

<sup>89</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 162]

<sup>90</sup> 廟内のシャジャレ・ナーメによる。一説には、エマーム・ムーサーの子孫であり [Nāṣer al-Sharī'e : 217, Javāher Kalām : 152]、ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメもこの説を採っている。それによると、Emāmzāde Seyyed Ja'far b. Moḥammad b. Aḥmad b. Hārūn b. Emām Mūsā al-Kāẓem.

<sup>91</sup> [Seyyed Javādī 3 : 357-358]

<sup>92</sup> [Ṭabāṭabāī : 2. 162, Noubān : 97]

<sup>93</sup> [Ṭabāṭabāī : 2. 163, Qom nāme : 124]ここで人々が Kheẓr の姿を見たと言えられる。

<sup>94</sup> Emāmzāde Hājī Ṣafar と呼ばれる。これは、このエマームザーデ・アリーレザーの召使いの名とされる。[Nāṣer al-Sharī'e : 218, Ṭabāṭabāī 2 : 167]

(北緯 34 度 33 分 59 秒 東経 50 度 44 分 64 秒 標高 933 メートル)

**Emānzāde ‘Alī Rezā b. Emām Zein al-‘Ābedīn<sup>95</sup>**

ゴムからジャムキャラーン方面に 1.5 ファルサング (約 8 キロメートル)。ジャムキャラーン街道から別れて鉦山に向かう未舗装道が通るのみで、周囲は人の手の入っていないビヤーパーンが広がっている。このビヤーパーンの外にあるパークにはワクフ地であるものが見られる。

ドームの乗ったハラムを中心として四方に十字型に出入り口を設けた比較的新しい廟。狭いハラムには金属製のザリー。廟の周囲には墓地が広がり、新しい墓も見られる。(写真 119~122)

**(30) امامزاده هادی و مهدی (Emānzādegān Hādī va Mahdī)**

Qom – Rūstāye Jamkarān

(北緯 34 度 35 分 42 秒 東経 50 度 54 分 04 秒 標高 941 メートル)

Shāhzāde Hādī va Shāhzāde Mahdī va Shāhzāde Nāṣer al-Dīn Moḥammad<sup>96</sup> b. Emām Zein al-‘Ābedīn ma’rūf be Panj Emānzāde

ジャムキャラーン村の住宅地を抜けた外れ。

二つ並んだ建物のうち、敷地への入り口から向かって左手の廟。増改築工事中。オリジナルは 1299/1881-2 年に Ḥosām al-Saltāne によって建てられたもの<sup>97</sup>。(写真 123~125)

ジャムキャラーンのマスジェドを訪れた人々がここにも訪れたり、廟の敷地内にある Derakhte Moqaddas を目当てに訪れたりする人が多いとのこと。そのため、ズィヤーラトの人々のためのザールサラーなどが整備されている。廟の周囲には墓地。

ハラムには金属製のザリー。

**(31) شاهزاده جعفر و سکنه خاتون (Shāhzāde Ja‘far va Shāhzāde Sakīne Khātūn)**

Qom – Rūstāye Jamkarān

(北緯 34 度 35 分 42 秒 東経 50 度 54 分 04 秒 標高 941 メートル)

<sup>95</sup> 廟内のシャジャレ・ナーメによる。しかし、[Javāher Kalām : 153]によると、Emānzāde ‘Alī Rezā b. Moḥammad b. Sharaf b. ‘Alī b. Moḥammad b. ‘Alī b. ‘Alī b. Ḥasan b. al-Aḥsas b. ‘Alī b. Emām Zein al-‘Ābedīn。また、Emānzāde ‘Alī b. Rezā Emām Zein al-‘Ābedīn あるいはまた、エマーム・ムーサーの子孫という説もある。[Nāṣer al-Sharī‘e : 218, Seyyed Javādī 2 : 420] ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emānzāde Seyyed ‘Alī b. Rezā b. Raḥī al-Dīn Moḥammad b. Fakhr al-Dīn Moḥammad b. Raḥī al-Dīn Moḥammad b. Zeid b. Dā‘ī b. Zeid b. ‘Alī b. Ḥosein b. Ḥasan b. ‘Alī b. Ḥasan b. ‘Alī b. Moḥammad b. ‘Alī b. ‘Alī al-Ḥarīrī b. Ḥasan al-Aḥsas b. ‘Alī Aṣghar b. Emām Zein al-‘Ābedīn である。[Nāṣer al-Sharī‘e : 218] は、Emānzāde Seyyed ‘Alī Rezā b. Moḥammad b. Raḥī al-Dīn Moḥammad b. Moḥammad b. Zeid b. ‘Alī b. Ḥosein b. Ḥasan b. ‘Alī b. Sharaf b. ‘Alī b. Moḥammad b. ‘Alī b. ‘Alī al-Ḥarīrī b. Ḥasan al-Aḥsas b. ‘Alī Aṣghar b. Emām Zein al-‘Ābedīn の可能性を指摘している。

<sup>96</sup> 廟内のシャジャレ・ナーメによる。[Noubān : 95]によると、Shāhzāde Hādī va Shāhzāde Mahdī と Shāhzāde Nāṣer al-Dīn Moḥammad は親子にあたる。ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emānzāde Seyyed Nāṣer al-Dīn Moḥammad b. Aḥmad b. Ḥamze b. Zahīr b. Aḥmad b. Moḥsen b. ‘Alī b. Ḥamze b. ‘Abdollāh b. Ḥosein b. Esmā‘īl b. Moḥammad b. ‘Abdollāh b. Emām Zein al-‘Ābedīn である。

<sup>97</sup> [Seyyed Javādī 3 : 360, Ṭabāṭabā‘ī 2 : 165-167, Nāṣer al-Sharī‘e : 216-7, Pazhūheshgāh, p.168, Javāher Kalām : 151]

Shāhzhāde Ja'far va Sakīne Khātūn b. Shāhzhāde Nāṣer al-Dīn Moḥammad b. Emām Zein al-'Ābedīn ma'rūf be Panj Emānzāde<sup>98</sup>

Shāhzhāde Hādī va Shāhzhāde Mahdī の右手にある銀色の低いドームを持つ廟。増改築工事中。オリジナルは 1299/1881-2 年に Ḥosām al-Saltane によって建てられたもの<sup>99</sup>。

ハラムには金属製のザリー。取り替えられる以前のザリーは 500 年前のものであった<sup>100</sup>。  
(写真 126~128)

### (32) درخت مقدس جمکران (Derakhte Moqaddase Jamkarān)

Qom – Rūstāye Jamkarān

Panj Emānzāde の中、Shāhzhāde Ja'far va Sakīne Khātūn の傍らに立つ樹齢数百年といわれる糸杉の木。Derakhte Hādī Mahdī とも呼ばれていたとのこと。(写真 129)

木の周囲を柵で囲い、直接触れることができないようになっているが、以前は木に触れながらドアーを読むということが普通に行われていたとのこと。また、願い事を心に思いながらタスピーフ（ムスリムが使用する数珠）を枝に投げかけるといことも行われており、色とりどりのタスピーフが枝から下がっている。(写真 130) また、木を囲う柵にはダヒールが結ばれている。(写真 131)

2009 年に切り倒され、現在は存在しない。(写真 132)

### (33) مسجد جمکران (Masjede Jamkarān)

Qom – Rūstāye Jamkarān

ジャムキャラン村の外れに建つマスジェド。(写真 133) 村人の一人が夢にエマーム・マフディーにここにマスジェドを建て、礼拝を行うよう命じられたことに始まる。火曜日の午後<sup>101</sup>になると国内外からズィヤーラトの人々が訪れる。マスジェドであるため、ズィヤーラトの人々は、ゲブレ (qibla のペルシア語読み) に触れ、すがりつき、涙を流したり接吻したりする。男性のマスジェドと女性のマスジェドは分けられている。

マスジェドの裏手に、エマーム・ザマーンがお隠れになっているとされる井戸があり、ズィヤーラトの人々が願い事を書いた紙を投げ込む。(写真 134,135)

国内外から集まる寄付により、マスジェドの拡張工事や付属施設の拡充など、常に建築工事が行われている。

<sup>98</sup> 廟内のシャジャレ・ナーメによる。ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Shāhzhāde Ja'far va Sakīne Khātūn b. Emānzāde Seyyed Nāṣer al-Dīn Moḥammad b. Aḥmad b. Ḥamze b. Zahīr b. Aḥmad b. Moḥsen b. 'Alī b. Ḥamze b. 'Abdollāh b. Ḥosein b. Esmā'īl b. Moḥammad b. 'Abdollāh b. Emām Zein al-'Ābedīn である。

<sup>99</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 167, Javāher Kalām : 152]

<sup>100</sup> [Noubān : 92]

<sup>101</sup> マスジェドが建設されるきっかけとなったのが、393 年ラマダーン月 17 日/1003 年 7 月 20 日火曜日の夜にジャムキャラン村の住民がエマーム・ザマーンに関係する夢を見たことによるためとされる。

## 2. ゴム市西部地区の聖所 (Qesmate Garbiye rūdkhāne)

ゴム川から西に広がる地域。以前はゴム市の外であった地区が多い。テヘラン-ゴム街道と、アラーク街道やエスファハーン街道を結ぶ地域。以前はいくつかの村が点在していたが、イラン・イスラーム革命後、急速に人口が増え、ゴムの一部として住宅地が広がる。

### (34) امامزاده احمد خاكفرج (Emānzāde Aḥmad Khākfaraj)

Qom – Meidāne al-Hādī

Emānzāde Aḥmad b. Abī al-Kheir Moḥammad b. 'Alī b. 'Omar b. Ḥasan al-Aftas b. 'Alī al-Aṣghar b. Emām Zein al-'Ābedīn<sup>102</sup>

息子である Abū al-Qāsem 'Alī と共に葬られている。Emānzāde Khākfaraj、Emānzāde Aḥmad va 'Alī と呼ばれた<sup>103</sup>。

現在はメイダーンに面して建つ角錐ドームを持つ小さな廟だが、以前は三つの Şahn とエイヴァーン、墓地を持つ大規模な廟だった。しかし、ゴムの拡大と共に、道路の拡張や Meidān の建設が行われ、現在の廟とその周辺のわずかな敷地へと削られてしまった<sup>104</sup>。敷地の一部は病院にもなっている。(写真 136)

オリジナルの廟はサファヴィー朝以前に遡り、1232/1817 年にファトフ・アリー・シャーの命により修繕が行われた<sup>105</sup>。数年前にも改修が行われている。(写真 137)

狭いハラムにエスファハーン型のザリーが置かれている。(写真 138)

### (35) امامزاده سيد محمد و سیده صفورا (Emānzāde Seyyed Moḥammad va Seyyede Şafūrā)

Qom – Meidāne al-Hādī

az oulāde Emām 'Alī<sup>106</sup>

Emānzāde Aḥmad の裏手に建つ円ドームを持つ廟。以前は、Emānzāde Şafūrā<sup>107</sup> と呼ばれていたが、最近になっておじとされる Emānzāde Moḥammad の名で呼ばれるようになった。

<sup>102</sup> Emānzāde Aḥmad b. Abī al-Kheir Moḥammad b. 'Alī b. Ḥasan al-Aftas b. 'Alī al-Aṣghar b. Emām Zein al-'Ābedīn と。[Nāṣer al-Sharī'e : 212-3, Moḥammadī Gīlānī : 511, Javāher Kalām : 146-7] しかし、Moḥammadī Gīlānī は最終的に、被埋葬者を Shāhzāde 'Alī al-Hāres □ va Shāhzāde Aḥmad と結論づけている。

<sup>103</sup> [Seyyed Javādī 2 : 411]

<sup>104</sup> [Moḥammadī Gīlānī : 509, 517]

<sup>105</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 83-86, Pazhūheshgāh : 116]

<sup>106</sup> Emānzāde Moḥammad b. 'Abdollāh b. Moḥammad b. 'Omar b. Emām 'Alī とも言われている。

[Moḥammadī Gīlānī : 525, Pazhūheshgāh : 178, Javāher Kalām : 147] [Nāṣer al-Sharī'e : 212-3]は、az oulāde 'Omar b. Emām 'Alī とのみ。ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emānzāde Moḥammad b. Aḥmad b. 'Abdollāh b. Moḥammad b. Ja'far b. Moḥammad b. 'Omar b. Emām 'Alī である。

<sup>107</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 87] この女性の出自は明らかではないとされるが、378/988-9 年没であるとされる。

[Moḥammadī Gīlānī : 523] また、ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emānzāde Şafūrā Khātūn b. Eshāq b. Aḥmad b. 'Abdollāh b. Moḥammad b. Ja'far b. Moḥammad b. 'Omar b. Emām 'Alī である。



オリジナルは15-16世紀の建築。1334/1916年にモハンマド・ミールザー・ガージャーレにより修理が行われた<sup>108</sup>。2004-6年にも改修が行われ、ドームのタイルが新しくなり、外装や内装も新しくなった。(写真139,140)

狭いハラムにエスファハーン型のザリーが置かれている。(写真141)

### (36) كعبه (Ka'be)

Qom – Meidāne al-Hādī – poshte Emānzāde Aḥmad

以前はエマームザーデの南西の角にあった小さな墓廟。カアバ神殿の中で使われている石が使われていたとされ、人々の崇敬を集めていた<sup>109</sup>。しかし、エマームザーデ・アフマドの敷地が削られたことに関連し、現在は建設中の病院の敷地内となり、立ち入りができなくなってしまい、既に廟は存在していない。

### (37) شاه جعفر (Shāh Ja'far)

Qom – Khiyābāne Shāh Ebrāhīm

Shāh Ja'far b. Emām Mūsā al-Kāẓem<sup>110</sup>

617/1220年のチングス・ハーンの侵攻により殉教した人物。現在のゴム市内で最も古い墓廟とされる。それ以前300年ほど前まで、ここにはゾロアスター教のアーテシュキヤデがあったと言われている<sup>111</sup>。(写真142,143)

7/13世紀のものとしてされる古い廟<sup>112</sup>を取り壊し、新たに建てられた、青いタイル張りのドームを持つ廟。大通りに面した側はマスジェドとなっている。裏手の廟となっている側には墓地。現在、墓地は庭園として整備され、木曜日や休日になると家族連れなどがピクニックを兼ねて食事を取ったり、休息したりしているのが見られる。

ハラムにはエスファハーン型のザリー。

### (38) امامزاده ابراهيم (Emānzāde Ebrāhīm)

Qom – Khiyābāne Shāh Ebrāhīm

Emānzāde Ebrāhīm b. Moḥammad b. Emām Mūsā al-Kāẓem<sup>113</sup>

<sup>108</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 87]

<sup>109</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 87, Nāṣer al-Sharī'e : 213]

<sup>110</sup> 廟内のシャジャレ・ナーメにはこのように表記されているが、ザリーでは、Shāh Ja'far b. Mūsā b. Ja'far b. Moḥammad b. 'Alī b. Ḥosein b. 'Alī b. Abī Ṭāleb となっている。しかし、こうしたシャジャレは確かなものではないともされる。[Moḥammadī Gilānī : 548-551, Javāher Kalām : 148-9] [Nāṣer al-Sharī'e : 214]は、Shāh Ja'far b. 'Alī b. Ḥamze b. Aḥmad b. Moḥammad b. Esmā'īl b. Moḥammad b. Emām Zein al-'Ābedīn あるいは Shāh Ja'far b. Ḥosein b. 'Alī b. Moḥammad b. Emām Ja'far の可能性を指摘している。

<sup>111</sup> [Pazhūheshgāh : 156-7, Nāṣer al-Sharī'e : 214, Seyyed Javādī 2 : 418, Qom nāme : 99] 現在でもこの付近の地名として Mazdījān が残っている。

<sup>112</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 35]

<sup>113</sup> 廟内の表示による。被埋葬者については異論も多く、それらについては[Moḥammadī Gilānī : 533-534, Nāṣer al-Sharī'e : 213] で詳細に議論されている。2009年、ワクフ慈善庁ゴム支部が配布したシャジャレ・ナーメによると、Emānzāde Ebrāhīm b. Moḥammad b. Moḥsen b. Ebrāhīm b. Mūsā b. Ebrāhīm b. Emām

父親である **Emāmzāde Moḥammad** と共に埋葬されている<sup>114</sup>。

タイル張りのドームを持つ新しい廟。ホセイニーエ、マスジェドも併設されている。廟の周囲には墓地が広がり、殉教者墓地も持つ。ゴム西部では最も人々の信仰を集めているエマームザーデの一つ。(写真 144~146)

以前の廟は取り壊されているが、オリジナルはイール・ハーン朝時代(13-14世紀)に遡るとされる<sup>115</sup>。以前はアーテシュキヤデを持つゴム周辺の一村であった<sup>116</sup>。

アーイーネカーリーで飾られたハラムは男女別に分けられ、エスファハーン型のザリーが中央に据えられている。(写真 147,148)

廟の拡張工事は継続的に続けられ、新たに廟への門も建てられた。2010年現在、廟の前の墓地を掘り返し、整備中。

### (39) امامزاده سيد معصوم (Emāmzāde Seyyed Ma‘šūm)

Qom – Meidāne Nobovvate Nīrūgāh

az oulāde Emām Zein al-‘Ābedīn<sup>117</sup>

小さな平たいドームが二つ並んだ廟。オリジナルはガージャール朝期のもものとされる<sup>118</sup>。

(写真 149)

金属製のザリーが置かれたハラムと、礼拝などのために使われる小部屋を持つ。(写真 150)

廟を訪れるのは近所の人が多いとのこと。廟を訪れ、ザリーの周囲を一周し、その後、同じように訪れた近所の女性たちと一時を過ごす姿が見られる。敷地内に何基かの墓が見られる。

### (40) امامزاده جمال الدين (Emāmzāde Jamāl al-Dīn<sup>119</sup>)

Qom – ebtedāye Jādde Arāk

Seyyed Jamāl al-Dīn Moḥammad az navādegane Emām Zein al-‘Ābedīn<sup>120</sup>

---

Mūsā al-Kāzem である。

<sup>114</sup> [Tabātabāī 2 : 71]によると、二人共に az farzandāne Emām Haftom であり、親子なのか兄弟なのかははっきりしない。

<sup>115</sup> [Tabātabāī 2 : 71-72, Moḥammadī Gīlānī : 541, Pazhūheshgāh : 150-151, Nāṣer al-Sharī‘e : 213]

<sup>116</sup> [Seyyed Javādī 2 : 405]

<sup>117</sup> 地元の人々はそのように信じているが、真偽のほどは明らかではない。[Moḥammadī Gīlānī : 579, Nāṣer al-Sharī‘e : 214, Javāher Kalām : 149] ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Seyyed Ma‘šūm b. Tāj al-Dīn b. Razī al-Dīn b. ‘Alī b. Rezā b. Razī al-Dīn Moḥammad b. Fakhr al-Dīn Moḥammad b. Razī al-Dīn Moḥammad b. Zeid b. Dā‘ī b. Zeid b. ‘Alī b. Ḥosein b. Ḥasan b. ‘Alī b. Ḥasan b. ‘Alī b. Moḥammad b. ‘Alī b. ‘Alī al-Ḥarīrī b. Ḥasan al-Aftas b. ‘Alī Aṣghar b. Emām Zein al-‘Ābedīn。

<sup>118</sup> [Tabātabāī 2 : 103] 2009年現在、この廟は取り壊され、新しい廟を建築中。(写真 151,152)

<sup>119</sup> Shāh Jamāl とも。

<sup>120</sup> 一説には、Shāh zāde Jamāl al-Dīn Moḥammad b. ‘Alī b. Moḥammad b. Moḥammad b. Ḥasan b. Zeid b. Dā‘ī b. Mahdī b. Esmā‘īl b. Ḥasan b. Moḥammad b. Najm b. Ḥosein b. ‘Alī b. Ḥasan b. Ḥosein b. Ḥasan al-Aftas b. ‘Alī Aṣghar b. Emām Zein al-‘Ābedīn [Moḥammadī Gīlānī : 576] ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Shāh zāde Jamāl al-Dīn Moḥammad b. ‘Alī b. Moḥammad b. Moḥammad b. Ḥasan b. Zeid b. Dā‘ī b. Mahdī b. Esmā‘īl b. Ḥasan b. Moḥammad b. Yaḥyā b. Ḥasan b. ‘Alī b. Ḥasan b. Ḥosein b. Ḥasan al-Aftas b. ‘Alī Aṣghar b. Emām Zein al-‘Ābedīn である。[Nāṣer al-Sharī‘e : 218]は、エマーム・ム

ゴム市内から1ファルサング。アラーク街道の始点に当たる。交通量が多く、休息を兼ねて足を止める人や、木曜日には墓参の人々で賑わう。

19世紀ガージャール朝期に建てられた廟を取り壊し、新しい廟を建築中<sup>121</sup>。ズィヤーラトの人々のためのザーエルサラールなどが建設されている。(写真 153)

エスファハーン型のザリーが置かれたハラムは男女別に分けられ、アーイーネカーリーを貼るための工事中。(写真 154)

廟の周囲は墓地。

近くにサーサーン朝期の Qaşre Dokhtar<sup>122</sup>。

#### (41) امامزاده سيد عبدالله (Emānzāde Seyyed 'Abdollah)

Qom – Qal'e Šadrī

(北緯 34 度 40 分 14 秒 東経 50 度 49 分 65 秒 標高 935 メートル)

Emānzāde Seyyed 'Abdollah az ahfāde Emām Zein al-'Ābedīn<sup>123</sup>

ゴムから1ファルサング、Darvāze Ma'sūme から半ファルサング。Qom-Gāzerān 街道入り口近くに建つ廟。以前は Shāh Zeid と呼ばれていた<sup>124</sup>。

土の円形ドームを持つ。オリジナルはガージャール朝以前に遡るとされているが<sup>125</sup>、増改築が行われ、現在はハラムの四方に小部屋を持つ十字型の廟となっている。(写真 155)

ハラムには緑色に塗られた大型の木製のザリー。(写真 156)

#### (42) پير حسن (Pīr Ḥasan)

Qom – Kūhe Yazadān – rū be rŷe Qal'e Šadrī

(北緯 34 度 39 分 84 秒 東経 50 度 47 分 37 秒 標高 999 メートル)

Emānzāde Ḥasan b. 'Alī b. Ja'far b. Moḥsen b. Ḥosein b. 'Alī b. Moḥammad b. Emām Ja'far<sup>126</sup>

Qom-Gāzerān 街道から山手に向かって煉瓦焼き場の間に入り、末舗装道路の突き当たりにある丘の上。丘の下には地下水を汲み上げる揚水場が作られている。

古い廟を取り壊し、新しい廟を建築中。(写真 157~159)

廟内に被埋葬者の墓石等は見られない。

---

一サーの子孫説を採っている。

<sup>121</sup> [Noubān : 97]

<sup>122</sup> [Tabātabāī 2 : 162]

<sup>123</sup> Seyyed Shāhzhāde 'Abdollah al-Abiyāz b. 'Abbās b. 'Abdollah al-Shahīd b. Ḥasan Aftas b. 'Alī al-Ašghar b. Emām Zein al-'Ābedīn とも言われるが[Mohammadī Gilānī : 562, Nāšer al-Sharī'e : 214]、これはシャフレ・レイのエマームザーデ・アブドッラーの父親である。[清水・上岡 : 37-38] そしてワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメもこのシャジャレを支持している。しかし、[Javāher Kalām : 153]では、イマーム・ムーサーの子孫であるとされている。

<sup>124</sup> [Tabātabāī 2 : 161]

<sup>125</sup> [Tabātabāī 2 : 161, Pazhūheshgāh : 187]

<sup>126</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによるが、近隣の人々は、どのような人物か不明であるとしている。

ダヒールが結ばれていたり、廟内でろうそくやランプを灯したりした跡があるなど人が訪れている形跡は見られるが、最も近い集落でもこの廟の存在を知らない人も多い。(写真 160~162)

### 3. 中央区ガナヴァート地区の聖所 (Bakhshe Markazī - Dehestāne Qanavāt)

ゴム市の南東、Houzeve Solṭān 湖の南から塩湖に至る地区。非常に乾燥した平地で、夏は非常に暑く、年間を通して降雨量はごくわずかである。そのため、表流水はほとんどなく、農業や生活用水はガナートに頼っている。

人口は少なく、農業、牧畜、石灰、石材が主な産業である。

#### (43) امامزادگان طیب و طاهر (Emānzādegān Ṭayyeb va Ṭāher)

Qom - Dehestāne Qanavāt – Rūstāye Mobārak ābād

(北緯 34 度 38 分 08 秒 東経 50 度 58 分 37 秒 標高 932 メートル)

Emānzādegān Ṭayyeb va Ṭāher az navādegane Emām Zein al-‘Ābedīn<sup>127</sup>

ゴム市のレイ門から 1 ファルサングという畑の中に建つ廟。二人の兄弟が葬られているとされる。

現在、廟の増改築工事中。オリジナルの廟はその様式から、14 世紀に遡る可能性が指摘されているが<sup>128</sup>、現在の建物はガージャール朝時代のものとされている。(写真 163)

角錐ドームを持つ塔状のハラムには彩色された絵が残されており、エスファハーン型のザリーが置かれている。(写真 164,165)

廟の周囲は墓地、近くの村の人々だけでなく、遠く離れた場所からも埋葬される人がいるとのこと。木曜日の午後になると、墓参りとズィヤーラトの人が多く訪れ、廟の前の駐車場や道路は渋滞を起こすほどになる。

#### (44) امامزاده خدیجه خاتون (Emānzāde Khadīje Khātūn)

Qom - Dehestāne Qanavāt – Rūstāye Mobārak ābād

(北緯 34 度 37 分 73 秒 東経 50 度 59 分 22 秒 標高 911 メートル)

Emānzāde Khadīje Khātūn az navādegane Emām Ja'far<sup>129</sup>

<sup>127</sup> Abū ‘Abdollāh Ḥosein とその息子 Moḥsen とされる。血統については、一説には az navādegane Emām Ḥasan Mojtabā である。[Seyyed Javādī 2 : 449-450] [Nāṣer al-Sharī'e : 218]は、Moṭṭahar va Ṭāher b. Aḥmad b. Moḥammad b. Ṭāher b. Aḥmad b. Moḥammad b. Ja'far b. ‘Abd al-Raḥman b. al-Shajarī b. Qāsem b. Ḥasan b. Zeid b. Emām Zein al-‘Ābedīn としている。また、[Javāher Kalām : 154]では、Moṭṭahar va Ṭāher b. Aḥmad b. Moḥammad b. Ṭāher b. Aḥmad b. Moḥammad b. Ja'far b. ‘Abd al-Raḥman b. al-Shajarī b. Qāsem b. Ḥasan b. Emām Zein al-‘Ābedīn。ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emānzādegān Ṭayyeb va Ṭāher b. Ḥasan b. Ḥosein b. ‘Alī b. ‘Omar b. Ḥasan al-Aftas b. ‘Alī Aṣghar b. Emām Zein al-‘Ābedīn となっている。

<sup>128</sup> [Tabāṭabāī 2 : 170-171, Pazhūheshgāh : 179]

Emāmzādegān Ṭayyeb va Ṭāher から 1 キロメートルほど Mobārak ābād 寄りの畑の中。

以前は、ゴム周辺によく見られる青いタイルを貼った角錐（円錐）ドームを持つ廟であったが、数年前に、ゴム市内のある肉屋が資金を提供して改修工事が行われ、現在の銀色の丸ドームを持つ形になった。オリジナルの廟は 14 世紀にゴムのを支配していた Ṣafī 家のアミールの命によって建設され<sup>130</sup>、その後何度か改修が行われている。（写真 166）

ハラムには金属製のザリー。泥棒が入り込み、ザリーの中に投げ込まれている金を盗んでいったりするので普段は鍵を閉めているとのこと。鍵は Emāmzādegān Ṭayyeb va Ṭāher のハーダムが管理しており、木曜日の午後のみ扉を開けている。（写真 167~169）

廟の周囲は墓地。ハーダムによると、ゴム周辺で働くアフガン人の墓が多いとのこと。

廟の敷地のすぐ隣に、14 世紀頃のものとする khānqāhe 'Alī Ṣafī という名の kheṣār(城塞)がある<sup>131</sup>。（写真 170）

#### (45) امامزاده سکینه خاتون (Emāmzāde Sakīne Khātūn)

Qom - Dehestāne Qanavāt – Rūstāye Khadije Khātūn – Dehkade Zālūn ābād

（北緯 34 度 29 分 34 秒 東経 51 度 07 分 74 秒 標高 888 メートル）

Emāmzāde Sakīne Khātūn b. Emām Mūsā al-Kāzem<sup>132</sup>

村からは距離のあるビヤバーンの中。近年整備された墓地に囲まれている。（写真 171）

タイルの貼られていない煉瓦のドームを持つ廟。オリジナルはサファヴィー朝初期のものと考えられている<sup>133</sup>。その後、ガージャール朝時代まで何度か修理を重ねており、近年にも廟とその周囲の整備が行われている。（写真 172）

エスファハーン型のザリーの置かれたハラムはそれほど広くないが、ハラムの周囲に小部屋がいくつか作られ、そこで礼拝などが行えるようになっている。（写真 173）

様々な奇跡譚が伝えられ、寄進も多いとのこと。

廟を囲む塀の外には、イスラーム期前後のタッペも見られる。（写真 174）

#### (46) بقعه شیخ نورالدین (Boq'ē Sheikh Nūr al-Dīn)

<sup>129</sup> このように伝えられているが、廟に残された碑文によると以下のようになる。Shāhzāde 'Abd al-Raḥman, Shāhzāde 'Abdollāh, Khadije Khātūn, Zeinab Khātūn, Roqaiye Khātūn va Fāteme Khātūn az farzandāne Emām Mūsā al-Kāzem. [Nāṣer al-Sharī'e : 219] また、Maryam Khātūn という女性も葬られているとされる。[Ejtehādī 1 : 196, Javāher Kalām : 154] ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emāmzāde Khadije Khātūn b. Esmā'īl b. Ḥosein b. Esmā'īl b. Moḥammad b. 'Abdollāh b. Emām Zein al-'Ābedīn となる。

<sup>130</sup> [Ejtehādī 1 : 196, Ṭabātabāī 2 : 171-173, Pazhūheshgāh : 273]

<sup>131</sup> [Ejtehādī 1 : 196]

<sup>132</sup> 廟内のシャジャレ・ナーメにはこのように記載されているが、Emāmzāde Sakīne b. Ḥosein b. Moḥammad b. 'Alī b. Qāsem b. 'Abdollāh b. Emām Mūsā al-Kāzem との説も伝えられている。[Nāṣer al-Sharī'e : 225] この人物は、ゴム市内に廟がある Solṭān Moḥammad Sharīf の孫、Seyyed Moṭahhar b. 'Alī b. Solṭān Moḥammad Sharīf の母である。[Seyyed Javādī 2 : 429, Pazhūheshgāh : 125, Javāher Kalām : 160] ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emāmzāde Sakīne b. Ḥosein b. Moḥammad b. 'Alī b. Qāsem b. Mūsā b. Qāsem b. 'Obeidollāh b. Emām Mūsā al-Kāzem である。

<sup>133</sup> [Ejtehādī 1 : 123; 198-199, Ṭabātabāī 2 : 173-174]

#### Qom - Dehestāne Qanavāt – Rūstāye Mobārak ābād

(北緯 34 度 36 分 84 秒 東経 50 度 59 分 07 秒 標高 907 メートル)

ゴムから村に入る入り口近く。

以前は土作りの廟があったとのことであるが<sup>134</sup>、現在はなくなってしまい、空き地となっている。(写真 175)

聖所としては全く機能しておらず、一定の年齢以上の人々の一部が、「名前ははっきり覚えていないがここに廟があった」と記憶しているのみとなっている。

#### (47) امامزاده ابراهيم (Emāmzāde Ebrāhīm)

##### Qom - Dehestāne Qanavāt – Rūstāye Mo'men ābād

(北緯 34 度 36 分 30 秒 東経 51 度 03 分 54 秒 標高 887 メートル)

村はずれのガルエの近くにある、村人が作った名前の明らかではない廟と記述されているが<sup>135</sup>、現在、村の拡大に従ってガルエは取り壊され、廟も以前のものが取り壊されて新しくなり、エブラーヒームという名がつけられている。(写真 176)

廟の周囲は墓地。ハラムにはアルミ製の大きなザリーが置かれている。

被埋葬者については不明。(写真 177)

#### (48) چهل دختران (Chehel Dokhtarān)

##### Qom - Dehestāne Qanavāt – az Rūstāye Sarāje narasīde be Doulat ābād

(北緯 34 度 37 分 67 秒 東経 51 度 07 分 00 秒 標高 868 メートル)

大麦畑の中に建つ小さな廟。煉瓦の低い塀で囲われた 3 メートル四方ほどの敷地の中に、高さ 2 メートルほどの土の円錐ドームが建っている。(写真 178,179) ドームに取り付けられた旗竿にダヒールが結ばれ、ドームの中にはろうそくを灯した跡が多数見られる。(写真 180~182)

また、煉瓦塀の外にはナズリーの食事を配ったあとと見られる使い捨て容器が多数捨てられており、何かの折りにここに人が集まっていることが分かる。

廟の由来等については不明。

## 4. ゴムルード区の聖所 (Bakhshe Markazī - Dehestāne Qomrūd)

ゴム市の北部から東部、Houze Solṭān 湖から塩湖に至る地区。非常に乾燥した平地で、夏は非常に暑く、年間を通して降雨量は 100 ミリメートル以下という乾燥地帯である。域

<sup>134</sup> 200 年ほど前の建物であったとされる。[Tabātabāī 2 : 173]

<sup>135</sup> [Tabātabāī 2 : 173]

内の大部分は水の不足や土中の塩分のため耕作不適地で、ガナートや深井戸による灌漑農業と牧畜、石灰や石材の採掘が主産業である。

#### (49) شش امامزاده (Shesh Emāmzāde)

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Qomrūd – Qomrūd

(北緯 34 度 43 分 57 秒 東経 51 度 01 分 14 秒 標高 881 メートル)

Emāmzādegān Moḥammad, Khāled, Ḥamze, Ḥasan va Roqiye Khātūn farzandāne Ja'far b.

Mūsā b. Ja'far<sup>136</sup>

ゴム方面から村へ入る手前に建つ。

周囲は広い墓地。その外には畑が広がる。(写真 183)

独特なドームの乗ったハラムには、エスファハーン型のザリーが置かれ、ここに男性 5 人が埋葬され、それとは別に、ハラムの壁に埋め込まれるように作られたザリーにロガイエが埋葬されていると言われる。(写真 184,185)

廟はサファヴィー朝時代のもと考えられているが<sup>137</sup>、その後、1331/1913 年ガージャー朝のナーセロディーン・シャーの時代に改築が行われ<sup>138</sup>、近年も改修が行われている。(写真 186)

木曜日の午後には周辺の村やゴムから多くの人が墓参とズィヤーラトのために訪れる。

#### (50) مقبرة جعفر (Maqbare Ja'far)

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Qomrūd – Rūstāye Kūhe Sefid

(北緯 34 度 47 分 83 秒 東経 51 度 10 分 80 秒 標高 859 メートル)

昔のゴム-レイ街道沿いの Qeloyān Forūsh と呼ばれる場所。石灰でできた Kūhe Sefid を目の前にした村。

廟はこの山の上にあったのだが<sup>139</sup>、近年、この山が石灰の採掘会社の所有となり、村人が自由に立ち入ることができなくなってしまった。また、採掘が進んだ結果、廟は破壊されてしまい、現在は残っていない。しかし、村人たちは廟の前に立っていた木～その当時既に枯れてしまっていたが～を山の麓近くに運んで安置し、そこを聖所としてズィヤーラトを続けることにした。(写真 187~189)

<sup>136</sup> 廟内のシャジャレ・ナーメによる。一説には、Emāmzādegān az farzandāne Abū Ja'far Moḥammad Šourānī b. Ḥosein b. Eshāq b. Emām Mūsā al-Kāzem. [Seyyed Javādī 3 : 363] また、ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emāmzādegān Ḥasan, Qāsem va Roqaiye Khātūn b. Moḥammad b. Moḥammad b. Ḥasan b. Ḥosein b. Eshāq b. Emām Mūsā al-Kāzem で、Ḥasan, Qāsem, Roqaiye Khātūn の父親である Moḥammad とその兄弟である、Ḥamze と Khāled の 6 人がここに葬られている。

<sup>137</sup> [Pazhūheshgāh : 173]

<sup>138</sup> [Tabātabāī 2 : 168-169, Seyyed Javādī 3 : 363, Noubān : 99] これらによると、1321/1903-4 年の日付のある碑文が残り、1343/1924-5 年に行われた改修の記録が残されている。

<sup>139</sup> [Tabātabāī 2 : 169] によればこれもそれほど古い廟ではなかった。

現在は、金曜日のみ、この採掘場への立ち入りが許されているが、村人を中心にズィヤールトの人は絶えず、木の後ろのくぼみにはランプがいくつも置かれ、木には新しいダヒールが数多く結ばれている。また、犠牲を屠った跡も見られる。(写真 190,191)

**(51) امامزاده يحيى معروف به اجاق (Emānzāde Yaḥyā ma'rūf be Ojāq)**

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Qomrūd – Rūstāye Şafar ābād

(北緯 34 度 50 分 29 秒 東経 51 度 00 分 90 秒 標高 989 メートル)

Ḥouze Solṭān 湖周辺のビヤーパーンの中。今は住民がほとんどいない村の中。(写真 192)  
ノウルーズやモハラムにはもとの住人がズィヤールトを訪れるとのこと。

村の家や家畜小屋と同じ作りの廟。物置や台所、犠牲を屠るための場所も用意されている。(写真 193)

村の住民はほとんどいないが、廟の中は非常によく手入れがされ、掃除も行き届いている。(写真 194) 墓石を持たない大きな墓石が置かれている。(写真 195)

**(52) امامزاده سليمان (Emānzāde Soleimān)**

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Qomrūd – Rūstāye Şafar ābād<sup>140</sup>

(北緯 34 度 51 分 88 秒 東経 51 度 02 分 58 秒 標高 951 メートル)

Emānzāde Soleimān b. Dāvūd b. Mūsā b. Aḥmad b. 'Abdollāh b. Ḥasan al-Afṭas b. 'Alī Aşghar b. Emām Zein al-'Ābedīn<sup>141</sup>

村の北に連なる低い山々を越え、Ḥouze Solṭān 湖方面へ向かって下りる途中。山の斜面に張り付く白くドームを持つ小さな廟。(写真 196)

ハラムの奥はえぐれた岩窟となっており、水がしみ出ている。その水を病気の羊に飲ませると病気が治ったという。現在、その泉は盗掘が行われたり干ばつが続いたりした結果、ほとんど干上がってしまった。(写真 197~199) ザリーを持たない大きな墓石が置かれている。

廟の前には犠牲を屠るための場所が設けられている。(写真 200)

毎年、スィーズダ・ベ・ダル(ノウルーズの 13 日目)になると、各地から人が集まってきて、犠牲を捧げるとのこと。(写真 201)

**(53) امامزادگان اهلعلی و سهلعلی (Emānzādegān Ahl 'Alī va Sahl 'Alī)<sup>142</sup>**

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Qomrūd – 12 Kīlometrī az Jādde Qadīm Tehrān-Qom

(北緯 35 度 05 分 52 秒 東経 50 度 44 分 67 秒 標高 1253 メートル)

<sup>140</sup> 公的な文書などには村の名前がこのように表示されているが、村の入り口に建つ看板では *Safar ābād* となっている。

<sup>141</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによる。

<sup>142</sup> 兄弟が葬られていると廟を訪れていた人々から説明され、ワクフ慈善庁のリストや案内板にも二人の名前が並べられているが、*Şafar ābād* の住人の一人によると、ここに葬られているのは *Ahl 'Alī* のみであり、*Sahl 'Alī* とは同村の *Emānzāde Soleimān* のことだとのことである。



旧ゴム街道から山手に向かって 12 キロメートルほど。山の中腹にある洞穴の中。(写真 202,203) せり出した岩の下にはめ込むようにして廟が作られ(写真 204,205)、ハラムには大きな木製のザリーが置かれている。(写真 206) ザリーの奥の岩肌に小さな扉が作り付けられ、その奥には水量は多くないが泉が湧いている。シャファーが非常にあるということで、近隣の人々の信仰を集めている。(写真 2-7~209) 洞穴の中、廟の奥からも水が湧いている。(写真 210)

犠牲を屠るための場所、それを料理するための場所、ザーエルサラーが用意されている。(写真 211,212)

宗教的な休日になると、周辺の村々から人が集まってきて、羊や山羊を屠り、食事をズィヤーラトの人々に振る舞う。(写真 213~215)

## 5. ラーフジェルド区の聖所 (Bakhshe Markazī - Dehestāne Rāhjerd)

ゴムからアラークへ向かう街道が通る。1300~1500 メートルを超える高地がほとんどで、夏は暑く、冬は非常に寒く、積雪も見られる。麦類と果樹を中心とした農業、牧畜が主要産業。

### (54) امامزاده عبدالصالح (Emānzāde ‘Abd al-Ṣāleḥ)<sup>143</sup>

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Rāhjerd – Rūstāye Rāhjerd

(北緯 34 度 22 分 90 秒 東経 50 度 22 分 00 秒 標高 1705 メートル)

村はずれに建つ廟。周囲は墓地。(写真 216)

小さなタイル張りのドームを持ち、近年の増改築によってマスジェド・ホセイニーエなどが隣接して建てられている。(写真 217,218)

ハラムにはアルミ製の大型ザリー。木曜日の午後のみ扉を開けるとのこと。(写真 219,220)

### (55) امامزاده جعفر (Emānzāde Ja‘far)<sup>144</sup>

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Rāhjerd – Rūstāye Zavvāriyān

(北緯 34 度 25 分 48 秒 東経 50 度 23 分 66 秒 標高 1625 メートル)

Emānzāde Ja‘far az navādegane Emām Mūsā al-Kāzem<sup>145</sup>

アラーク街道沿いに建つ廟。(写真 221) そのため、街道を往来する人々が、休憩を兼ねて足を止め、礼拝を行ったりズィヤーラトを行ったりしている。

<sup>143</sup> [Ṭabātabāī 2 : 208]

<sup>144</sup> [Ṭabātabāī 2 : 208]

<sup>145</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emānzāde Ja‘far b. Mūsā b. Moḥammad b. Aḥmad b. Hārūn b. Emām Mūsā al-Kāzem で、ジャムキャラーンのエマームザーデ・ジャアファルの甥となる。

以前の廟を取り壊して新しい廟を建築中。廟だけではなく、ザーエルサラーなどの施設も同時に整備している。(写真 222)

ハラムにはエスファハーン型のザリー。(写真 223)

#### (56) امامزاده قاسم (Emānzāde Qāsem)

Qom - Bakhsh Markazī - Dehestāne Rāhjerd – Rūstāye Zavvāriyān

(北緯 34 度 26 分 37 秒 東経 50 度 22 分 80 秒 標高 1766 メートル)

Emānzāde Qāsem b. Ḥosein b. Aḥmad b. Ḥosein b. Aḥmad b. 'Alī b. Emām Ja'far<sup>146</sup>

村の後背の山の中。村から見える位置ではないが、廟から見下ろすとエマームザーデ・ジャアファルが見える。(写真 224,225)

石を積み上げた廟。廟の周囲には古い墓地。

廟はよく手入れされており、廟内の清掃なども行き届いている。

入り口を入ってすぐの小部屋と、その奥にハラム。ハラムにはザリーを持たない大きな墓石が置かれ、周囲を巡るのが精一杯の広さ。(写真 226,227)

#### (57) شاهزاده عباس (Shāhzāde 'Abbās)

Qom - Bakhsh Markazī - Dehestāne Rāhjerd – Rūstāye 'Abbās

(北緯 34 度 31 分 69 秒 東経 50 度 29 分 43 秒 標高 1361 メートル)

Shāhzāde 'Abbās az navādegane Emām Mūsā al-Kāẓem<sup>147</sup>

村から離れた墓地の中。周囲から少しだけ高くなっている。

古い廟を取り壊して建てられた新しい廟。オリジナルはサファヴィー朝のもので、ガーギーヤール朝時代に改修が行われていたとされる<sup>148</sup>。(写真 228)

広いハラムにはザリーを持たない墓石が置かれている。(写真 229)

#### (58) سه خواهران (Se Khāharān)

Qom - Bakhsh Markazī - Dehestāne Rāhjerd – Rūstāye Dīzjān

(北緯 34 度 21 分 68 秒 東経 50 度 24 分 49 秒 標高 1735 メートル)

村の外、街道と畑の間に建つ廟。周囲には小規模な墓地。(写真 230,231)

ハラムのドームや壁は崩れ落ち<sup>149</sup>、被埋葬者を示す墓石などを見つけることはできない。被埋葬者は不明だが、三姉妹と伝えられる<sup>150</sup>。(写真 232,233)

<sup>146</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによる。10 世紀中頃に亡くなった人物である可能性が高いとされる。

<sup>147</sup> Emām Zein al-Ābedīn からとも言われている。ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Shāhzāde 'Abbās b. Ḥosein b. Moḥammad b. Ḥosein b. 'Isā b. Moḥammad b. Qāsem b. Ḥasan b. Zeid b. Emām Ḥasan Mojtabā である。

<sup>148</sup> [Tabātabāī 2 : 207, Seyyed Javādī 2 : 450-451, Pazhūheshgāh : 163]

<sup>149</sup> [Tabātabāī 2 : 208]によるとそれほど古い廟ではなかった。2009 年 10 月に通りかかった際には、廟を完全に取り壊し、新しい廟を建設するための準備が始まっていた。(写真 234)

墓地には新しい墓も見られるが、廟内は人が訪れている様子は見られない。

(59) پير محمود (Pīr Maḥmūd)<sup>151</sup>

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Rāhjerd - Rūstāye Dīzjān

(北緯 34 度 24 分 59 秒 東経 50 度 21 分 97 秒 標高 1740 メートル)

アラーク方面へ向かう街道から山手へ入る細い道を行くと、枯れかかった十数本の木が並んでいる。(写真 235,236) 以前は水が引かれ、ホウズが作られていた跡が見られるが、現在は完全に干上がり、放棄されている。

ホウズの傍らに、小さな一部屋だけの廟の跡。現在は完全に崩れ、石積の壁の跡しか残っていない。人が訪れている様子は全く見られないが、周辺の村の人々は、この木の並ぶ場所にピールがあったということは良く記憶している。(写真 237)

(60) پير قيصر (Pīr Qiṣar)

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Rāhjerd - Rūstāye Dīzjān

(北緯 34 度 24 分 99 秒 東経 50 度 20 分 88 秒 標高 1740 メートル)

ピール・マフムードへの入り口から 2 キロメートルほど南から山に向かう。山陰にひとかたまりの木が生えた水場があり、その前の低い丘の上に建つ廟。現在は、壁の一部を残して完全に崩れてしまっている。廟の周囲には、盗掘の跡が多数見られる。(写真 238~240)

水場は現在も水が湧いており、人々が水を持ち帰ったり、ピクニックをしていたりする。

(61) خواجه حسن (Khāje Ḥasan)

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Rāhjerd - Rūstāye Dīzjān (Rūstāye Farah ābād)<sup>152</sup>

(北緯 34 度 21 分 68 秒 東経 50 度 24 分 49 秒 標高 1723 メートル)

Dīzjān や周辺の村の人々は昔、半日ほどかけて歩いてここまで通っていたとのことだが、現在は、アラーク街道ではなく、デリージャーン・エスファハーン街道側から Farah ābād へ。そこから徒歩で 30 分ほどの低い丘の上。(写真 241)

ドームを持つ廟であったが、現在はドームも壁も崩れ落ち、ハラムは煉瓦や土で埋もれて立ち入ることは難しい。落書きやたき火の跡は多く見られるが、ズィヤーラトの人々の跡は見られない。(写真 242,243)

現在この周辺は、禁猟区自然保護区となっている。

<sup>150</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emāmzādegān Zeinab, Omm Kolṣūm va Roqaiye Khātūn farzandāne 'Abdollāh b. 'Abbās b. 'Abdollāh b. Ḥasan al-Afṭas b. 'Alī Aṣghar b. Emām Zein al-'Ābedīn というシャジャレの可能性が示されている。

<sup>151</sup> [Tabātabāī 2 : 208]は、Pīr Morād としているが、現地では尋ねると、そのような Pīr はこのあたりにはないとのこと。Dīzjān 村周辺で確認できた三つのピールと照合すると、Pīr Morād とは、この Pīr Maḥmūd を指していると判断せざるを得ない。

<sup>152</sup> [Tabātabāī 2 : 208]では Dīzjān に存在することになっているが、現在の住所はこちらになる。Dīzjān の人々は Farāhān と呼んでいるが、街道に出ている表示によると Farah ābād が正しい。

(62) امامزاده بلال (Emānzāde Balāl)

Qom - Bakhshe Markazī - Dehestāne Rāhjerd – Jādde Arāk – rū be rūye Rūstāye Jondāb

(北緯 34 度 29 分 33 秒 東経 50 度 31 分 95 秒 標高 1323 メートル)

Shāhzāde Balāl b. Emām Mūsā al-Kāzem<sup>153</sup>

エスファハーン街道から外れたビヤバーンの中。

現在は使われていない古い墓地が広がる中に建つ低いドームを持つ廟。(写真 244)

壁への落書きは目立つものの、廟内の手入れは行き届いている。ザリーを持たない大きな墓石が置かれている。(写真 245,246)

6. キャハク区キャハク地区の聖所 (Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak)

Kahak 区はゴム市の南部から南東部にかけての地域。Kahak、Fardo、Neizār の三つの地区からなる。全体的に山間部に位置し、キャハク地区は特に、ゴム市の Īlāq(夏营地)として知られてきた。歴史は古く、キャハク地区の中心のキャハク市は著名な哲学者モッラー・サドラー(1571–1641)が隠遁生活を送り、その他にも、ミールフェンデルスキーやミールダーマードなどが夏を過ごしたことでも知られる。

夏は比較的涼しく、冬は寒い。冬の降水量が多いため農業用水は比較的豊富で、果樹栽培が主要産業である。

近年は著名な聖所のある村などにヴィラが建てられ、ゴム市やテヘランなどから夏を過ごすために訪れる人も増えている。

(63) امامزاده سليمان غريب معروف به شاه زنده (Emānzāde Soleimān Gharīb ma'rūf be Shāh Zende)<sup>154</sup>

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Khor ābād

(北緯 34 度 30 分 49 秒 東経 50 度 57 分 30 秒 標高 1052 メートル)

Emānzāde Soleimān az navādegane Emām Ja'far

ゴムから 2 フェルサングという村の外にある低い丘の中腹に建つ、緑色のドームを持つ廟。廟の建設はイール・ハーン朝期に遡るとされる<sup>155</sup>。(写真 247,248)

3 世紀ほど前、ある村人が夢でエマームザーデを見、その夢に従って丘を掘ったところ墓石が発見された。そこに小さな廟を作り、エマームザーデを祀った。そのとき発見された墓石は、現在、廟の壁に埋め込まれている<sup>156</sup>。(写真 249)

<sup>153</sup> [Tabātabāī 2 : 207]

<sup>154</sup> [Nāṣer al-Sharī'e : 225]によると、Shāhzāde 'Abd al-Rahman。

<sup>155</sup> [Noubān : 93]

<sup>156</sup> 970/1562-3 年と 989/1581 年の日付を持つ二つのセイエドの名前の入ったもの。[Noubān : 93]

廟内のあちこちにダヒールが結ばれ、泊まり込みができるように布団も用意されている。  
(写真 250~252)

他の廟のように被埋葬者を示す墓石等がないため、エマームザーデ・ソレイマーンは死んでおらず見えないだけで生きている、ということで *Shāh Zende* (生きている王) と呼ばれているとのこと。

**(64) امامزادگان سلطان محمود و زينب خاتون (Emānzādegān Solţān Maḥmūd va Zeinab Khātūn)**

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Şorm ābād

(北緯 34 度 29 分 70 秒 東経 50 度 56 分 45 秒 標高 1088 メートル)

Emānzāde Solţān Maḥmūd b. Emām Zein al-Ābedīn va Zeinab Khātūn b. Emām Mūsā al-Kāzem<sup>157</sup>

街道から見て村の奥の外れに建つ廟。周囲は墓地。

土のドームを持つ廟<sup>158</sup>。近年改修が行われている。(写真 253)

ハラムには金属製のザリーが置かれている。(写真 254)

**(65) شاهزاده عباس يا هفت امامزاده (Shāhzāde ‘Abbās yā Haft Emānzāde)**

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Verjān

(北緯 34 度 26 分 09 秒 東経 50 度 53 分 29 秒 標高 1298 メートル)

Emānzādegān Ebrāhīm, ‘Abbās<sup>159</sup>, Şāleḥ, Fīrūz, Ḥasan, Ja’far va Abū al-Qāsem farzandāne Emām Mūsā al-Kāzem<sup>160</sup>

村の外のバークの中に建つ廟。

古い廟を取り壊し、新しい廟を建築中。(写真 255)

ハラムには古く破損が目立つ木のザリー。その中には大きなタイル張りの棺が置かれている。ハラムの奥に小部屋。(写真 256,257)

廟の敷地内を、バークへ水を引くための水路が走っている。(写真 258)

---

[Tabātabāī 2 : 177]によると、971 年モハラム月 10 日/1563 年 8 月 30 日、Mīrjān b. ‘Alī Mīrān b. ostād Mīrjān Gāzor Kāshānī と、989/1581-2 年、Ostād Sharaf al-Dīn b. ‘Alī b. Ḥasan b. Shams al-Dīn Ash‘alī Kāshānī の墓石。

<sup>157</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emānzāde Solţān Maḥmūd b. Moḥammad b. Zeid b. ‘Alī b. ‘Alī b. Moḥammad b. ‘Abdollāh b. Moḥammad b. Ḥasan b. Ḥosein b. Emām Zein al-Ābedīn であり、ゴム市内のチェヘル・アフタラーンに廟のある Emānzāde Zeid の孫であり、テヘランのシェミーラーナートに廟のあるエマームザーデ・アリー・アクバルの玄孫にあたることになる。[清水・上岡 :18] 参照。

<sup>158</sup> [Tabātabāī 2 : 177]によると、それほど古い廟ではない。

<sup>159</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emānzāde ‘Abbās b. ‘Abdollāh b. ‘Abbās b. ‘Abdollāh b. Ḥasan al-Aftas b. ‘Alī Aşghar b. Emām Zein al-Ābedīn で、Qal‘e Şadrī のエマームザーデ・アブドラーの息子で、テヘランのシャフレ・レイに廟のあるエマームザーデ・アブドラーの兄弟である。[清水・上岡 :37-38] 参照。

<sup>160</sup> [Tabātabāī 2 : 178, Seyyed Javādī 3 : 358, Pazhūheshgāh : 163-164] [Nāşer al-Sharī‘e : 226]によると、‘Abbās, Ebrāhīm, Ḥosein, Şāleḥ, Ja’far, Qāsem az oulāde Emām Mūsā al-Kāzem。

**(66) شاهزاده ابراهيم (Shāhzāde Ebrāhīm)**

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Sīrū

(北緯 34 度 25 分 37 秒 東經 50 度 55 分 10 秒 標高 1281 メートル)

Shāhzāde Ebrāhīm b. Emām Moḥammad Bāqer

村はずれに建つ廟。現在は隣に建つマスケドの方が大きく、目立つ。廟の前にはガナー  
ト・ピール・マフディーの水をひいた大きなハウス。(写真 259,260)

サファヴィー朝期の建築とされる<sup>161</sup>、低いドームを持つ土作りの廟だが、壁に亀裂が入  
ったり、一部が崩れ落ちたりして痛みが目立つ。(写真 261)

廟の外に墓地は見えないが、入り口を入ってすぐの部屋には何基かの新旧の墓があり、そ  
の奥にハラムがある。

ハラムの中央に 1015/1606-7 年の日付を持つ古い木製のザリーが置かれ、その傍らにも  
緑色に塗られた墓がある。これは息子アッパースのものであるとされ<sup>162</sup>、二人は、アッパ  
ース朝カリフ・ハールーン・アッラシード軍との戦いの中で殺され、ここに葬られたとされ  
ている。(写真 262,263)

**(67) امامزاده معصومه یازینب خاتون (Emānzāde Ma'sūm yā Zeinab Khātūn)**

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Shahre Kahak

(北緯 34 度 24 分 14 秒 東經 50 度 51 分 58 秒 標高 1436 メートル)

Emānzāde Ma'sūme b. Emām Mūsā al-Kāzem<sup>163</sup>

ゴムから 4 ファルサング、キャハクの町の北西の外れの丘の斜面に建つ廟。(写真 264,265)

サファヴィー朝シャー・イスマーイールの娘シャー・ベイガム、シャー・タフマースブな  
どにより建設されたものとされる<sup>164</sup>タイルを貼った円錐ドームを持つ廟に、近年、ホセイ  
ニーエ、廟の管理事務室、台所、トイレ等、ズィヤーラトの人々のための施設が加えられて  
いる。

廟の建つ位置より一段下がった場所は水が引かれ、木々が生い茂り、週末になると人々が  
集まってくる。夏休みは泊まりがけでやってくる人も多いとのこと。ゴム周辺で人々の信仰  
を最も集めている聖所の一つ。(写真 266)

ハラムには 999/1590-1 年の日付の入った木製のザリーが置かれ、ハラムの三方向をサロ  
ンが取り囲んでいる。(写真 267)

**(68) چهار امامزاده (Chahār Emānzāde)<sup>165</sup>**

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Shahre Kahak

<sup>161</sup> [Tabātabāī 2 : 178-181, Pazhūheshgāh : 147, Noubān : 95]

<sup>162</sup> [Nāsher al-Sharī'e : 223, Seyyed Javādī 2 : 404; 443, Javāher Kalām : 158]

<sup>163</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emānzāde Zeinab Khātūn b. Moḥsen b. Ebrāhīm b.  
Mūsā b. Ebrāhīm b. Emām Mūsā al-Kāzem である。

<sup>164</sup> [Pazhūheshgāh : 210, Ejtehādī 1 : 188, Tabātabāī 2, 183, Seyyed Javādī 2 : 473]

<sup>165</sup> [Nāsher al-Sharī'e : 223]では、Emānzāde dar Gabrestāne Kahak.

(北緯 34 度 23 分 38 秒 東経 50 度 51 分 72 秒 標高 1475 メートル)

キャハクの町の外れ。墓地の一角に建つ廟。Emāmzādegān Moḥammad, ‘Abdollah, Ya‘qūb va Nāṣer の四人が埋葬されているとされる。

以前は土の丘があったが、1285/1868-9 年に村人の夢に従って三基の墓が発見され、廟が作られた<sup>166</sup>。現在の廟はその当時のものから改修が行われたもの。(写真 268,269) ハラムには金属製のザリーが置かれている。(写真 270)

### (69) شاه قاسم (Shāh Qāsem)

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Shahre Kahak

(北緯 34 度 22 分 62 秒 東経 50 度 51 分 89 秒 標高 1517 メートル)

キャハクからダストジェルド方面への街道を横切った農地の中。(写真 271,272)

ガナートの出口が廟の下に作られている。以前は二つあったという廟の跡は、現在ほとんど残っていないが、少し前までは壁の跡は残っていたとされる<sup>167</sup>。しかし、村の人たちによると、盗掘があまりに多いので、村の人々によって、廟であったことが分かるような崩れた壁などはすべて取り払われてしまったとのこと。(写真 273) 現在は、壁の痕跡と盗掘の跡のみが残っている。しかし、キャハクや周辺の村の人々は、ここが聖所であったと認識し、位置も正確に記憶している。

### (70) امامزاده محسن (Emāmzāde Moḥsen)

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Qobādbezan

(北緯 34 度 21 分 49 秒 東経 50 度 52 分 14 秒 標高 1578 メートル)

Shāhzāde Moḥsen b. Emām Zein al-‘Ābedīn<sup>168</sup>

村の端にある墓地の中に建つ廟。(写真 274)

古い廟を取り壊し<sup>169</sup>、新しい廟を建築中。オリジナルの廟は 10 世紀に遡るとされる。

広いハラムにはザリーを持たない背の低い大理石の墓石。(写真 275)

廟の傍らにトゥート(桑)の大木とガナートの出口があり、村の共同の洗い場となっていた。(写真 276)

### (71) امامزاده در بن علی معروف به دره گوگل (Emāmzāde Dorr b. ‘Alī ma‘rūf be Darre Gougal)<sup>170</sup>

<sup>166</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 183, Nāṣer al-Sharī‘e : 223, Javāher Kalām : 158]

<sup>167</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 183-186]筆者は見つけることができなかったが、以前は 16-17 世紀の日付を持つ墓石が周囲に見られたとのことである。

<sup>168</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emāmzāde Moḥsen b. Ḥosein b. ‘Alī b. Moḥammad b. Emām Ja‘far である。

<sup>169</sup> 16 世紀頃のものとする。[Pazhūheshgāh : 166] また、1268/1851-2 年に、Mirzā Feiḏ Marqūm が村を通りかかったときに、村の人々が廟を建てているところに出会い、その 2 年後に再び通りかかったときには完成していた。そこでズィヤラト・ナーメを 2 枚の木の板に書き付け、ワクフとしたという記録が残っている。[Nāṣer al-Sharī‘e : 224-245, Ṭabāṭabāī 2 : 189, Javāher Kalām : 160]

<sup>170</sup> ワクフ慈善庁のリストによるとこの廟はおそらくエマームザーデ・エブラーヒームであるが、村の人に

**Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Abarjes**

(北緯 34 度 20 分 20 秒 東経 50 度 48 分 89 秒 標高 1830 メートル)

村の端に建つ、石と煉瓦の小さな廟<sup>171</sup>。周囲には墓地が広がる。(写真 277,278)

廟の前を現在は枯れている小川が走っている<sup>172</sup>。そのため、Darre Gougal と呼ばれると  
のこと。

ハラムにはザリーを持たない大きな墓石。(写真 279,280)

**(72) شاهزاده علی اکبر (Shāhzāde ‘Alī Akbar)<sup>173</sup>**

**Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Abarjes**

(北緯 34 度 20 分 68 秒 東経 50 度 49 分 47 秒 標高 1743 メートル)

Shāhzāde ‘Alī Akbar b. Ḥasan b. Moḥammad b. ‘Abdollāh b. Moḥammad b. ‘Abdollāh b.

Ḥasan al-Moṣannā b. Emām Ḥasan Mojtabā<sup>174</sup>

村から離れた場所に作られたバークの中。建築途中の廟。(写真 281)

ハラムにはザリーを持たない背の低い墓石。(写真 282)

村の一人が見た夢に従って発見された廟とされるが<sup>175</sup>、村内で尋ねても、この廟に関する  
由来や信仰について情報がほとんど得られなかった。

**(73) امامزاده قاسم (Emāmzāde Qāsem)<sup>176</sup>**

**Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Abarjes**

(北緯 34 度 20 分 06 秒 東経 50 度 48 分 87 秒 標高 1862 メートル)

Emāmzāde Qāsem b. Aḥmad b. Ja‘far b. Emām Mūsā al-Kāẓem<sup>177</sup>

エマームザーデ・アリー・アクバルとは村を挟んで反対の高台に建つ廟。廟の周囲には古  
い墓地。新しい墓は少ない。

古い廟を取り壊し、新しい廟を建築中。(写真 283)

---

よるとワクフ慈善庁が勝手につけた名前だとのこと。また別な村人によると、Dorr b. ‘Alī に対してワクフ  
慈善庁がつけた名前だと言い、情報に混乱が見られるが、いずれにせよ、Abarjes 村にエマームザーデ・エ  
ブラーヒームはないということで一致している。また、廟内に、「Dorr b. ‘Alī」と書かれた布が下げられて  
いることから、この廟の名が Dorr b. ‘Alī であることに間違いはないように思われる。

<sup>171</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 186-7]では、村内に三つある聖所のうち、最も古いものとされる。

<sup>172</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 189]はアバルジェス川の中にある、と記述している。

<sup>173</sup> 村の人には、‘Alī b. Ḥosein が正しいという人も見られる。また、村の人には、こちらが Dorr b. ‘Alī だ  
と言う人もいた。また、[Javāher Kalām : 160]によると、この廟は名前を持たない。

<sup>174</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによる。

<sup>175</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 186]

<sup>176</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 186]

<sup>177</sup> 廟内のシャジャレ・ナーメによる。ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emāmzāde Qāsem  
b. Ḥosein b. Zeid b. ‘Alī b. Ḥosein b. Zeid b. Emām Zein al-‘Ābedīn である。



廟内はそれほど広いものではないが、ザリーを持たない大きな墓石が置かれ、泊まり込みのための布団も用意されている。アバルジェス村の人々が最も信仰を寄せているのがこのエマームザーデであるとのこと。(写真 284)

**(74) امامزاده فاضل (Emānzāde Fāzel)<sup>178</sup>**

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Bīdhend

(北緯 34 度 19 分 25 秒 東経 50 度 49 分 57 秒 標高 1947 メートル)

Emānzāde Fāzel b. Emām Mūsā al-Kāzem<sup>179</sup>

村はずれの高台に建つ廟。

1260/1844 年に建てられた古い廟<sup>180</sup>を取り壊し、マスジェド、ホセイニーエを兼ねた新しい廟を建築中。(写真 285,286)

エスファハーン型のザリーが広い廟内の中央に置かれている。(写真 287)

ここには 1260/1844 年以前には廃墟があった。しかし、ここにエマームザーデが葬られているという夢を見た村人らがその場所を掘り返すと墓が見つかり、さらに掘ると、数本の緑色のろうそくが出てきた。そこで村人らはここに廟を建てた<sup>181</sup>。

**(75) امامزاده نورعلي (Emānzāde Nūr'Alī)<sup>182</sup>**

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Kermejjān

(北緯 34 度 16 分 38 秒 東経 50 度 50 分 46 秒 標高 2186 メートル)

Emānzāde Seyyed 'Alī b. 'Omar b. 'Alī b. 'Omar b. Emām Zein al-Ābedīn<sup>183</sup>

村を通り過ぎ、さらに山手に 2 キロメートルほどの森の中。

古い廟を取り壊し、立て替えられた新しい廟。廟の拡張計画があり、募金を呼びかけている。(写真 288,289)

夏に多く訪れるズィヤーラトの人々のため、ザーエルサラールが用意されている。(写真 290)

四方をサロンに囲まれたハラムは男女別に分けられ、金属製のザリーが置かれている。(写真 291)

**(76) امامزاده عيسى (Emānzāde 'Īsā)**

Bakhshe Kahak – Dehestāne Kahak – Rūstāye Venārj

(北緯 34 度 25 分 62 秒 東経 50 度 46 分 35 秒 標高 1401 メートル)

<sup>178</sup> この名で呼ばれるようになったのは最近のことで、以前は「エマームザーデ」「ズィヤーラトガー」とだけ呼ばれていた。[Seyyed Javādī 2 : 460]

<sup>179</sup> 廟内のシャジャレ・ナーメによる。ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emānzāde Fāzel b. Ḥasan b. Aḥmad b. Moḥammad b. 'Alī b. Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā b. Moḥammad b. Aḥmad b. Mūsā al-Mobarreḡe' b. Emām Moḥammad Taqī である。

<sup>180</sup> [Ṭabātabāī 2 : 188]

<sup>181</sup> [Nāṣer al-Sharī'e : 224, Pazhūheshgāh : 198, Ṭabātabāī 2 : 188, Javāher Kalām : 159-60]

<sup>182</sup> Emānzād Shāpūr 'Alī とも呼ばれる。[Nāṣer al-Sharī'e : 226, Ṭabātabāī 2 : 188]

<sup>183</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによる。

Emānzāde ʿĪsā b. Ḥosein b. Zeid b. Moḥammad b. Aḥmad b. Jaʿfar b. ʿAbd al-Raḥman b. Moḥammad b. Qāsem b. Ḥasan b. Zeid b. Emām Ḥasan Mojtabā<sup>184</sup>

村から1キロメートルほど離れた街道沿いの低い丘の上。廟のすぐ近くを枯れ川が通っている。

古い廟を取り壊し、新しい廟を建築中。(写真 292)

広いハラムにはアルミ製ザリーが置かれている。(写真 293)

## 7. キヤハク区ファルドウ地区の聖所 (Bakhshe Kahak – Dehestāne Fardo)

キヤハク区で最も山間部に位置する。夏も比較的涼しく、冬は寒冷的な気候を持ち、冬の降雨が多いことから地下水にも恵まれている。その気候と水を生かし、果樹の栽培が盛ん。

### (77) امامزاده اسحاق (Emānzāde Eshāq)

Bakhshe Kahak – Dehestāne Fardo – Rūstāye Miyam

(北緯 34 度 41 分 09 秒 東経 50 度 54 分 51 秒 標高 1620 メートル)

Emānzāde Eshāq b. Emām Mūsā al-Kāzem<sup>185</sup>

村の外に広がるバグの中に入建つ廟。それ以前の古い廟を取り壊して、ドームを持つ新しい廟になっている。(写真 294) 周囲に墓地は特に見られない。

廟の前の水路をガナートで引かれた水が流れている。

ハラムには、ガラスカバーで覆われた大理石の墓石が置かれている。(写真 295)

1280/1863-4 年に、村人の見た夢によって葬られたときそのままの状態で見発された<sup>186</sup>。

### (78) امامزاده ابراهيم (Emānzāde Ebrāhīm)

Bakhshe Kahak – Dehestāne Fardo – Rūstāye Dastgerd

(北緯 34 度 20 分 26 秒 東経 50 度 54 分 92 秒 標高 1693 メートル)

Shāhzāde Ebrāhīm va Abū Ṭāleb az navādegane Emām Zein al-ʿĀbedīn<sup>187</sup>

村の中を通る街道沿いに建つ廟。廟の周囲は村の墓地。

建築はサファヴィー朝期に遡るとされる<sup>188</sup>、緑色のドームを持つ古い廟。廟の周囲には、現在はほとんど崩れ落ちてしまっている、恐らくは廟に付属していた建物が見られる。(写真 296,297)

<sup>184</sup> ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによる。

<sup>185</sup> 墓石の表面にはこのように刻まれているが、[Nāṣer al-Sharī'e : 223, Javāher Kalām : 159] によると、Emānzāde Eshāq b. Mūsā b. Eshāq b. Ebrāhīm b. Mūsā b. Ebrāhīm b. Emām Mūsā al-Kāzem である。

<sup>186</sup> [Tabātabāī 2 : 189, Nāṣer al-Sharī'e : 223-234, Seyyed Javādī 2 : 411-412]

<sup>187</sup> [Seyyed Javādī 3 : 356]

<sup>188</sup> [Tabātabāī 2 : 190]

塔状のハラムの入り口脇には古いアーブギーネ(ガラスを使った鏡)がはめ込まれている。  
(写真 298)

ハラムには、大きな古い木製のザリーが置かれ、木製や金属製の古いズィヤーラト・ナーメがいくつも置かれている。(写真 299,300)

**(79) امامزادگان ستیه خاتون و سکینه خاتون (Emāmzādegān Setiye Khātūn va Sakīne Khātūn)<sup>189</sup>**

Bakhshe Kahak – Dehestāne Fardo – Rūstāye Dastgerd

エマームザーデ・エブラーヒームへの正門を入ってすぐ右手にある、建築中の廟。古い木製のサンドウグが廟の外に置かれており、墓石も取り外されている。オリジナルの廟はサファヴィー朝のものとされる<sup>190</sup>。

二人の女性が葬られていると言われているが、名前ははっきりせず、また、同じ敷地内にあるエマームザーデ・エブラーヒームとの関係も不明。(写真 301,302,303,304) また、エマームザーデであるという認識が薄いのか、マスジェドであると説明する人も見られた。

**(80) شاهزاده اسماعیل (Shāhzāde Esmā'īl)**

Bakhshe Kahak – Dehestāne Fardo – Rūstāye Bīdgān

(北緯 34 度 20 分 41 秒 東経 50 度 59 分 93 秒 標高 1685 メートル)

Shāhzāde Esmā'īl b. Aḥmad b. Ḥosein b. Aḥmad b. Ḥasan b. Aḥmad b. 'Alī b. Emām Ja'far<sup>191</sup>

ゴムから 5 ファルサングの村から 1 キロメートルほどさらに山の中。ゴム市外では最も有名なエマームザーデの一つで、いくつもの奇跡譚が伝えられている<sup>192</sup>。休日になると、ゴムや近隣から多くの人々が訪れ、夏は泊まりがけでやってくる人も多い<sup>193</sup>。そのため、廟の周囲には、ザエルサラ、台所、トイレなどの設備が整えられている。(写真 305~ 307)

13 世紀頃に建てられたと考えられる円錐ドームを持つ廟<sup>194</sup>。近年、廟の改修が行われ、ドームのタイルが新しくなった<sup>195</sup>。(写真 308)

ドームの下の塔状のハラムは男女別に分けられ、中央にエスファハーン型のザリーが置かれている。ザリーの中には、エスマイルとエマーム・ムーサーの子孫とされるモハンマドが葬られているとされる大きな墓石と、エスマイルの息子 Ḥamze の小さな墓石。(写真 309,310)

**(81) شاهزاده هادی (Shāhzāde Hādī)<sup>196</sup>**

<sup>189</sup> [Ṭabātabāī 2 : 190] によると、Sakīne の代わりに Ḥalīme Khātūn であるが、村の人たちによると名前は Setiye Khātūn と Sakīne Khātūn である。[Noubān : 103]では Ḥalīme Khātūn にのみ言及している。

<sup>190</sup> [Noubān : 103]

<sup>191</sup> [Nāṣer al-Sharī'e : 221-222]

<sup>192</sup> [Nāṣer al-Sharī'e : 222]

<sup>193</sup> [Tārīkhe Qom : 40-41]

<sup>194</sup> [Nāṣer al-Sharī'e : 221, Pazhūheshgāh : 155-156, Ṭabātabāī 2 : 190-193, Noubān : 91]

<sup>195</sup> それ以前のタイルはガージャール朝のファトフ・アリー・シャー時代のもの。[Pazhūheshgāh : 155-156]

<sup>196</sup> Hādī va Settī Shahr Bānū az navādegane Emām Zein al-'Ābedīn, Ḥalīme Khātūn va Roqaiye Khātūn az

Bakhshe Kahak – Dehestāne Fardo – Rūstāye Veshnave

(北緯 34 度 15 分 28 秒 東経 50 度 59 分 77 秒 標高 2000 メートル)

Shāhzāde Hādī b. Emām Zein al-‘Ābedīn<sup>197</sup>

村はずれの墓地の中に建つ廟。廟の西側は谷となっている。

サファヴィー朝時代の建築とされる古い廟<sup>198</sup>。ドームのタイルは一部剥落している。(写真 311)

三方を小部屋に囲まれたハラムには金属製のザリーが置かれ、天井には彩色された絵が見られる。(写真 312,313)

墓地の一角にザーエルサラールが作られており、木曜日や休日、特に春から夏にかけてはズィヤーラトの人々が多く訪れる。(写真 314)

(82) شاهزاده رقيه و شاهزاده آمنه خاتون (Shāhzāde Roqaiye va Shāhzāde Āmene Khātūn)<sup>199</sup>

Bakhshe Kahak – Dehestāne Fardo – Rūstāye Fardo

(北緯 34 度 15 分 58 秒 東経 50 度 54 分 39 秒 標高 2098 メートル)

キャハクから 6 ファルサング、村とは浅い谷上になった墓地を挟んで向かい合う丘の上に立つ廟<sup>200</sup>。(写真 315)

以前の廟を取り壊して、新しい廟を建築中。オリジナルの廟は、サファヴィー朝のシャー・ソレイマーンの娘によってワクフが設定されたという記録があることから、その頃まで遡ると考えられる<sup>201</sup>。(写真 316,317)

ハラムには大きなアルミ製ザリーが置かれている。(写真 318,319)

(83) امامزاده حسين معروف به امامزاده بوره (Emāmzāde Ḥosein ma‘rūf be Emāmzāde Būre)<sup>202</sup>

Bakhshe Kahak – Dehestāne Fardo – Rūstāye Fardo

(北緯 34 度 13 分 61 秒 東経 50 度 54 分 71 秒 標高 2326 メートル)

Emāmzādegān Ḥosein, Moḥammad, Roqaye va Sakīne farzandāne Shāh Cherāgh<sup>203</sup>

---

navādegane Emām Bāqer, Zeinab Khātūn az navādegane Emām Mūsā al-Kāzem の五人が埋葬されているとも言われる。[Pazhūheshgāh : 215]

<sup>197</sup> [Nāṣer al-Sharī‘e : 225] によると、エマームの息子ではなくて子孫。ワクフ慈善庁配布のシャジャレ・ナーメによると、Emāmzāde Hādī b. Šāleḥ b. Moḥammad b. Yaḥyā b. ‘Alī b. ‘Omar b. ‘Alī b. ‘Omar b. Ḥasan al-Aftas b. ‘Alī Aṣghar b. Emām Zein al-‘Ābedīn。

<sup>198</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 194-195, Pazhūheshgāh : 215, Noubān : 103]

<sup>199</sup> 廟内のズィヤーラト・ナーメによると、この廟に埋葬されているのは Shāhzāde Amīn al-Dīn va Roqaiye Khātūn, Shāhzāde Mohīn al-Dīn va Āmene Khātūn であるが、[Nāṣer al-Sharī‘e : 225] によると、Emāmzādegān Amīn al-Dīn, Mo‘ayyen al-Dīn, Āmene Khātūn va Zeinab Khātūn az oulāde Emām Zein al-‘Ābedīn である。

<sup>200</sup> [Pazhūheshgāh : 198]

<sup>201</sup> [Ṭabāṭabāī 2 : 195-196]

<sup>202</sup> Boq‘e Chahār Emāmzāde とも。[Seyyed Javādī 3 : 333] [Nāṣer al-Sharī‘e : 226]によると、Būre ではなく Nūre。[Ṭabāṭabāī 2 : 196, Noubān : 91]によると、Bāvare。

また、エマームザーデ・ホセインとはワクフ慈善庁が使用している名称で、現地の人々にはほとんど全くこの名称では認識されていない。

<sup>203</sup> 廟のハーダムによると被埋葬者はこの四人であるが、資料によって被埋葬者の名前は異同が見られる。